

参加選手  
体験談集

# ねんりんピックで輝く シニアの星



© ねんりんピックかながわ 2022 実行委員会



第34回 全国健康福祉祭 神奈川・横浜・川崎・相模原大会

## ねんりんピックかながわ2022

神奈川に 咲かせ長寿の いい笑顔 未病改善でスマイル100歳

2022/11/12(土) - 2022/11/15(火)



はじめに

## ねんりんピックかながわ 2022 参加選手体験談集の刊行にあたって

第34回全国健康福祉祭神奈川・横浜・川崎・相模原大会（ねんりんピックかながわ2022）は、「神奈川に 咲かせ長寿の いい笑顔 未病改善でスマイル 100歳」をテーマに、多くの関係団体や開催地のボランティアの方々のご支援・ご協力のもと、令和4年11月12日から15日までの4日間にわたって開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により3年ぶりの開催となった本大会では、サーフィンとスポーツチャンバラがねんりんピック初開催となり、ねんりんピック史上最多の32種目のスポーツ・文化の交流大会が県内26市町で開催されました。また、健康・福祉・生きがいに関する多彩なイベントも実施され、開催期間を通じ延べ約62万人の方々にご参加をいただき、盛大な大会となりました。

また、全国各地から集った1万人を超える選手が日々の練習成果を発揮するとともに、競技仲間や地元の方々、他チームの選手との交流や観光などを通じて、県内の魅力を十分に満喫されました。

このたび、大会に参加された選手のエピソードや感想、大会当日の様子などをお伝えし、ねんりんピックの楽しさ、大会にける選手の情熱をより多くの方々に知っていただくため、体験談集を作成することといたしました。

体験談から伝わってくる選手の競技にける熱い想い、大会に向けての日々の懸命な練習、周囲への感謝の心、試合・観光を共に楽しむ姿に、生きがい・健康づくりの大切さや心の豊かさについて改めて振り返る機会となるとともに、ひとりでも多くの方にご覧いただき、ねんりんピックで輝くシニアの素晴らしさに触れていただけたら幸いです。

なお、体験談の募集にあたっては、各都道府県・政令指定都市の選手派遣団体の皆様に多大なるご協力をいただきました。ここに心よりお礼申し上げます。

終わりに、ねんりんピックかながわ2022に参加された選手の皆様、開催に尽力された神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市をはじめ、交流大会の開催市町、各競技団体やボランティア、心温まるおもてなしをしていただいた県民の皆様、協賛いただきました企業・団体に心から感謝申し上げ、刊行の言葉といたします。

2022年12月

一般財団法人 長寿社会開発センター

# CONTENTS

## 北海道 東北

|     |                    |         |    |
|-----|--------------------|---------|----|
| 岩手県 | 横澤 繁さん             | ウォークラリー | 6  |
|     | 高橋 紀子さん            | マラソン    | 7  |
| 秋田県 | 高橋 幸雄さん            | マラソン    | 8  |
| 福島県 | 由田 營 史さん           | ソフトテニス  | 9  |
|     | 山本 和 宏さん           | 健康マージャン | 10 |
| 仙台市 | 仙台シニア<br>ソフトボールクラブ | ソフトボール  | 11 |
|     | 堀 卓 次さん            | ペタンク    | 12 |

## 関東 甲信越

|     |           |              |    |
|-----|-----------|--------------|----|
| 茨城県 | 松 浦 剛さん   | ダンススポーツ      | 14 |
| 栃木県 | 溝 井 代 次さん | ターゲット・バードゴルフ | 15 |
|     | 伊 藤 武さん   | ソフトテニス       | 16 |
| 群馬県 | 辻 川 嘉 彦さん | 卓 球          | 17 |
| 東京都 | 長 島 雄 己さん | サッカー         | 18 |
| 山梨県 | 小 俣 照 彦さん | ソフトバレーボール    | 19 |
| 長野県 | 竹 内 弘 子さん | ソフトバレーボール    | 20 |

## 東海 北陸

|     |           |           |    |
|-----|-----------|-----------|----|
| 岐阜県 | 松 居 正 樹さん | テニス       | 22 |
| 静岡県 | 水島ともえさん   | インディアカ    | 23 |
|     | 袴 田 進 吾さん | サッカー      | 24 |
| 愛知県 | 鈴 木 利 和さん | スポーツチャンバラ | 25 |

## 近畿

|     |           |              |    |
|-----|-----------|--------------|----|
| 滋賀県 | 窪 田 幸 二さん | テニス          | 28 |
|     | 松 山 進さん   | スポーツチャンバラ    | 29 |
| 京都府 | 波多野正信さん   | ターゲット・バードゴルフ | 30 |
| 大阪府 | 小 森 稔 信さん | ソフトテニス       | 31 |
| 奈良県 | 月 岡 麗 子さん | グラウンド・ゴルフ    | 32 |
| 大阪市 | 角 谷 豊さん   | 剣 道          | 33 |
| 堺 市 | 南 野 恭 和さん | サッカー         | 34 |
|     | 米田紀代子さん   | 水 泳          | 35 |

中国  
・  
四国

|     |         |           |    |
|-----|---------|-----------|----|
| 鳥取県 | 三橋裕司さん  | ソフトバレーボール | 38 |
| 島根県 | 西村和正さん  | 卓球        | 39 |
|     | 増野峰国さん  | サッカー      | 40 |
| 岡山県 | 氏房 要さん  | 軟式野球      | 41 |
|     | 矢吹卓彦さん  | スポーツチャンバラ | 42 |
| 山口県 | 橋本 勲さん  | ペタンク      | 43 |
|     | 田中健二さん  | 水泳        | 44 |
| 徳島県 | 木内栄造さん  | ゴルフ       | 45 |
|     | 福井和弘さん  | ソフトボール    | 46 |
| 香川県 | 杉下良子さん  | なぎなた      | 47 |
|     | 佐々木 登さん | サッカー      | 48 |
| 高知県 | 野村美雪さん  | スポーツチャンバラ | 49 |
| 広島市 | 樋口 毅さん  | 水泳        | 50 |

九州  
・  
沖縄

|     |        |             |    |
|-----|--------|-------------|----|
| 長崎県 | 平田好郎さん | ダンススポーツ     | 52 |
| 熊本県 | 矢野 穰さん | グラウンド・ゴルフ   | 53 |
|     | 守田涼子さん | スポーツウエルネス吹矢 | 54 |
| 沖縄県 | 金城盛男さん | グラウンド・ゴルフ   | 55 |

Information

|             |    |
|-------------|----|
| Information | 57 |
|-------------|----|



※本文中に記載している年齢は大会ご参加時のものです。



# 北海道・東北



|                                                                                                          |                                                                                                                     |                                                                                                       |                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| p.6 岩手県                                                                                                  | p.7 岩手県                                                                                                             | p.8 秋田県                                                                                               | p.9 福島県                                                                                                  |
| 横澤 繁さん<br><br>ウォークラリー   | 高橋紀子さん<br><br>マラソン                 | 高橋幸雄さん<br><br>マラソン   | 由田 營史さん<br><br>ソフトテニス |
| p.10 福島県                                                                                                 | p.11 仙台市                                                                                                            | p.12 仙台市                                                                                              |                                                                                                          |
| 山本和宏さん<br><br>健康マーじゃん | 仙台シニア<br>ソフトボールクラブ<br><br>ソフトボール | 堀 卓次さん<br><br>ペタンク |                                                                                                          |





## ウォークラリー 「イーハトーブ花巻」(選手代表)

よこ さわ しげる

横澤 繁さん

79 歳

● 参加歴：7 回目

## 1 点差で優勝！ 「夢は叶う」と実感

私たちのチームは「ねんりんピック富山 2018」への出場を目指して編成し、チーム名を花巻市の童話作家・宮澤賢治の作品の言葉にあるイーハトーブ(理想郷)より「イーハトーブ花巻」としました。

チーム員は地域でウォークラリー大会の企画・運営に永年携わっていましたので、とやま大会では優勝を狙いましたが、優勝を意識し過ぎて冷静な判断ができず惨敗。本大会はとやま大会の二の舞にならぬよう、私がウォークラリーの発祥の地「静岡県立三ヶ日青年の家」で考案者の渡邊佳洋先生から講習を受けたことをもとに研修会を実施し、さらに、岩手県選手団の結団式で披露するダンスの練習も始めました。総合開会式前日の岩手県選手団結団式ではダンス「青春」を踊らせていただき、出席者からの盛大な拍手にチームの士気が高まりました。翌日の総合開会式のメインアトラクションが同じく「青春」で、この時に優勝の予感がしました。

翌日のウォークラリー交流大会では、通常ルールは「ゴール手前で回答する観察ゾーンを設定する」のですが、今回はコース全体から観察問題を出すとの事前説明があり、経験したことのない難しいコースになると感じました。隠しタイムを予想し、座間市長のピストルの号砲で出発。チェックポイントの問題は全チームとも高得点が取れるもので、勝負は観察問題と時間得点となると思われ、約 50 分経過した時に逆回りのトップチームと交差したことから歩行速度を修正しました。その後、コマ図から時間予測を再修正して少し急ぎ足でゴール前に到着しました。提示された観察問題は予想もしてい

なかった内容で、予測時間寸前であったことから急いで回答を記入してゴールしました。表彰式では予想時間通りゴールしたことにより時間得点は満点でしたが、観察問題は間違っしまい総合点は 10 点減点。しかし、2 位と 1 点違いで「優勝の夢」が叶いました。

勝因は、チーム全員がウォークラリーを理解し、コマ図の見方や観察ポイントに精通しており、コミュニケーションが図れた余裕のある楽しい歩きになったことと思われます。開始式会場で渡邊佳洋先生が記念撮影をされており、私がシャッターを押したことも「優勝の運」を呼んだのかなと思います。他チームとも交流でき、座間市の風土・自然に多くふれて歩く楽しさを味わうことができました。チーム全員、この優勝を糧にして「ねんりん世代」にウォークラリーの楽しさを伝えたいと張り切っております。



座間市長から賞状を授与。(右から3番目)



表彰式の壇上でアテンダーと。(写真中央)



## マラソン 3km 「岩手県」(選手)

たか はし のり こ

高橋 紀子さん

62 歳

● 参加歴：1 回目

## 3 年ぶりの開催で、夢のスタートラインへ！

60歳の還暦になったらねんりんピックに参加する！

30代よりマスターズ陸上を楽しんできた私は、かねてより参加した方々より大会の規模の大きさ、素晴らしさについて伺っており、当然のように自分もその舞台に参加できると思っていました。しかし2020年、念願の60歳になったその年、突然に新型コロナウイルスが発生し、生活は何もかも一変。色々なことが自粛され、ねんりんピック岐阜2020は延期、ねんりんピック岐阜2021に至っては中止の事態に……。

そして迎えた2022年、様々な感染対策をとった上で3年ぶりに「ねんりんピックかながわ2022」が開催され、私は62歳で参加することができました。

横浜アリーナで開催された華やかな総合開会式。観覧席からの参加となりましたが、岩手県選手団としてお揃いのユニフォームで誇らしい気持ちで臨み、私達の世代に合わせ創意工夫を凝らした内容に感嘆し、翌日からの競技に心躍りました。

大会当日は晴天。マラソンは足柄郡山北町丹澤湖畔の特設コースで3km、5km、10kmの3種目が行われ、私は3kmに参加しました。丹澤湖畔は美しい紅葉の名残を留め、全国の皆さんと同じスタートラインに立てる喜び、競技できる幸せをかみしめながらスタート。しかしコースはアップダウンが激しく、岩手では

平坦なところをジョギングしかしてこなかったため、どんどんキツくなってきました。そんな時、後半の登りで元気に腕を振って走る年配の男性の姿が目に入り「やるなあ！私も頑張ろう!!」と並走、「ハアハア！ハッハッ!!」と二人の息づかいがお互いを刺激します。「年配の方に負けられん!」、向こうも「女には負けられん!」と思っていた……かどうかはわかりませんが二人の並走はゴール迄続きました。最後はお互い必死に腕を振りラストスパート！

結果は70歳未満部門2位。レース後その方から「あんたのおかげで70歳以上で8位入賞できたよ」と笑顔で言われ、嬉しさ倍増♪岩手から参加した他のマラソンメンバーも各種目で優勝、入賞を果たし喜びを分かち合いました。本大会では多くの方と笑顔溢れる時間を過ごすことができ、特別な思い出となりました。

まだまだ新型コロナウイルス感染症流行の終息が見えませんが、これからも多くの方が健康でそれぞれの夢に向かって「生涯青春」を目指し、競技を続けていけますよう願っています。

いきいき岩手支援財団はじめ大会関係者の皆様、夢の時間をありがとうございました。



岩手県の選手団の皆さん。(左から3番目)



表彰式でメダルを手に。(左)



## マラソン 3km 「秋田県」(選手)

たかはし ゆき お

高橋 幸雄 さん

77 歳

● 参加歴：5 回目

## ～未病改善でスマイル 100歳～に誘われて

3年前、椎間板ヘルニアを患い歩行も困難になり手術、翌年再発のため再手術。ようやく走れると思った矢先、昨年悪性リンパ腫と診断され、抗がん剤治療のため8カ月間入退院を繰り返し、すっかり筋力が落ち、走ることも好きな登山もできない状態になった。今年春から何か目標を定め、体力づくりをと考えていたところ、今大会のテーマが「未病改善でスマイル 100歳」と知り、秋まで練習すれば完走できるのではと思い申し込んだ。しかし、筋力の回復が遅れ、9月になりようやく3km走れるようになった。事前に送られてきた参加者名簿には自分よりも10歳あまり上の方もおり、その気になり練習を続けた。

今大会では、以前の「秒単位で競い合った記憶」を捨て、とにかく目標は「完走」。スタートラインに立った時、走れるようになった嬉しさに体を震わせた。スタートの合図のとたん、各選手の勢いは予想していた通りであったが、マイペースを言い聞かせ足を運んだ。紅葉に染まる山々、丹沢湖に映える景色を眺めながら、追い越すことに優越感を味わい、追い越されると悔しさに抜き返したりしながら、ゴールに向かった。ゴールタイムを見たとき、少しガッカリもしたが完走できたことに大満足した。

大会を支えていただいた地元山北町の皆様、大変お世話になった。

開会式では、全選手行進はなかった分、例年では観ることのできなかった式典前アトラクションを観ることがで

きたし、トワ・エ・モアによる「虹と雪のバラード」の歌とそれに合わせた演技の素晴らしさに酔った。屋根のある会場をふんだんに利用した開会式に感動した。

講演会にも参加した。講師の紺野美沙子さんの毎日実践している自己健康維持行動には感心した。話の中で加山雄三さんの言葉を紹介してくれたが、人生の三冠王、感心（好奇心）、感動（ときめき）、感謝の言葉が今でも頭に残る。さらに「老いは背中からくる」では、年を重ねれば姿勢が大切と言っていた。その通りだと思う。四つの詩を紹介してくれたが「一生青春」を語るサムエル・ウルマンの詩「青春」は私も以前から好きな詩であった。

一貫して「未病改善」の話に感動したことも今回の大会に参加しての収穫であった。

今回の大会を通して病あがりの自分に勇気を与えてくれ、行動することに導いてくれた神奈川県の皆様に心から感謝申しあげたい。



病から復活し、見事完走した。



## ソフトテニス 「福島県ソフトテニス」(監督兼選手)

よし だ えい じ  
由田 營史さん

73 歳

● 参加歴：1 回目

## 笑いの絶えない楽しいねんりんピック

「ねんりんピックかながわ 2022」の参加に際しては、神奈川県の関係者の皆様には大変お世話になりました。どこでも親切に対応していただき、関係者の皆様の「おもてなし」の気持ちに感謝いたします。

また、福島県選手団派遣団体関係者の皆様には、大会参加への準備から様々な連絡など、大変お世話になりました。しかもお忙しい中、会場に応援にも来ていただき、激励をしていただきました。ありがとうございました。

私たち「福島県ソフトテニス」チームは、県内選抜大会を勝ち抜いたミックスダブルス、男子ダブルス、女子ダブルスの3ペアにより結成したチームです。今年のメンバーは、いわきから4人、会津から2人で、すべて初めての参加でした。予選リーグの前日に初めて全員で顔を合わせました。その夜、皆で夕食を楽しみながら、翌日のゲームについて話し合うなど、楽しいひと時を過ごしました。

1日目、予選リーグは、「福島県」と「宮崎県」「相模原市」「神戸市」による4チームでの戦いでした。我々は6人とも初めての参加のためか、かたさが目立ち、なかなか普段通りにできず、1戦目、2戦目と連敗しました。しかし、お互いを励まし合いながら、3戦目によりやうく勝利しました。結果は残念ながら、1勝2敗と4位でした。

その夜、皆で夕食会を行い、予選リーグの結果から、翌日の決勝トーナメントでは、1位を目指して頑張るとともに、楽しむことを申し合わせました。この場も楽しく、笑いが絶えず、翌日のゲームに向けてとても良い夕食会となり

ました。

決勝トーナメントの1戦目は「香川県」との対戦となりました。1勝1敗で迎えましたが、女子ダブルスの頑張りにより勝利しました。2戦目の相手は「滋賀県」でしたが、ここからは、先に2勝した時点で終了となり、我々が2勝し勝利しました。これで勢いに乗り、3戦目「さいたま市」に2勝0敗で勝ち、決勝でも「神奈川県」に2勝0敗で勝ち、4位グループリーグの1位となり、大変な盛り上がりとなりました。優秀賞のメダルまでいただき、皆で大喜びいたしました。

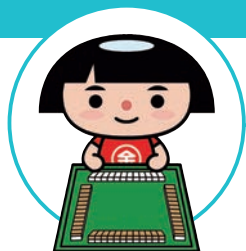
このねんりんピックを通して、我がチームは、笑いの絶えない、楽しいチームでした。同時に改めて、個人戦とは違う団体戦の楽しさを認識させられました。



優秀賞のメダルを手に。(左から2番目)



笑顔で戦い抜いた「福島県ソフトテニス」チーム。(右から3番目)



## 健康マージャン 「しのぶ雀友会」(選手代表)

やま もと かず ひろ

山本 和宏さん

71 歳

● 参加歴：2 回目

## ねんりんピック ―― 幸齢者にとって憧れの祭典

新型コロナウイルスの影響により、ぎふ大会の延期・中止を経て、3年ぶりに開催された本大会、コロナへの感染という不安は拭えなかったものの、細やかな配慮のおかげで結果として思い出に残る素晴らしい大会となった。開催決行という勇気ある決断に対し、大会関係者に心から感謝と敬意を表したい。

さて、マージャンといえば、賭け事というマイナスイメージで評価されがちだが、健康マージャンは「賭けない・飲まない・吸わない」を合言葉として点数を競い合う、至って健全な競技である。配牌や捨て牌から相手の手牌を推測して、どんな手の内を展開すれば良いか。また符や点数計算など、時の運に左右されることも多いが常に頭を駆使しなければならないため、ドキドキ・ワクワクの連続である。

これらのことから、健康マージャンは脳の活性化に有効であることが立証され、最近では、全国レベルの大会も数多く開催されている。これからも、このメリットを体感すべく前向きにチャレンジしていきたい。

今回、縁あって県の代表選考会をクリアして「ねんりんピック」への参加資格を得られたことは誠に嬉しい限りである。(秋田での大会以来5年ぶり2回目の参加)

本大会を通して、他県の選手から良い意味でたくさんの刺激をいただいたり、チーム内の人生の先輩とのやり取りの中で貴重な学び得たりなど、とにかく有意義な時間を過ごすことができた。

本県チームの成績は、右上記の通りである。

個人戦：ブロック優勝2人  
(それぞれ大三元と四暗刻を上がった)  
団体戦：第14位  
※高齢者特別表彰(90歳)受賞

「ねんりんピック」は、全国各地の歳を重ねた健全な参加者たちとの貴重な交流の場であり、高齢者改め幸齢者にとっての憧れの祭典だと言える。できることなら毎年参加したいと思える貴重な大会ではあるが、何せ代表選考会という難関をクリアしなければ夢は叶わない。

今後も、憧れの大会への参加(3回目)を目指して、健康管理に気を配りながら腕を磨き続けていきたい。



真剣な表情で手牌を見つめる山本さん。



手練れぞろいの福島県のメンバー。(左から2番目)



## ソフトボール

仙台シニアソフトボールクラブ

● 参加歴：2回目

### チームで掴んだ一勝！ 次の目標は交流試合での勝利

私たち仙台 SSC（仙台シニアソフトボールクラブ）は、今年で創部 27 年目を迎える仙台では伝統あるシニアチームの一つです。宮城県シニアソフトボール連盟主催の春・秋のリーグ戦、仙台市ソフトボール協会の市民大会などでは、度々好成績を残してきました。平成 30 年のとやま大会にも出場しています。その際は、交流試合・交歓試合とも残念ながら敗れてしまいました。昨年、仙台市のねんりんピック予選を勝ち上がったからは、ねんりんピックでの一勝が今年の大きな目標となりました。

11 月 12 日（土）の感動的な総合開会式を終え、試合会場である小田原市に移動し、種目別開始式に参加しました。開始式でチームにとってうれしい出来事がありました。それは、メンバーの一人が、「高齢者賞」で表彰されたことでした。84 歳で、試合や練習に欠かさず参加し、長年チームに貢献してきました。その姿勢は、私たちの目標とする存在で、チームの宝でもありみんなで喜びを分かち合いました。

13 日（日）、いよいよ交流試合一回戦を迎えました。相手は、和歌山県「南海ヤングクラブ」でした。相手チームの猛攻を受け、残念ながら

ら 13 対 5 で敗れてしまいました。私たちの目標である一勝は叶いませんでした。しかし、次の日の交歓試合で何とか勝利を収めたいと気持ちを切り替えました。帰る際、交歓試合の相手がまだ決まっていなかったが、次の日の会場に到着して、試合相手が地元小田原市の「クラブ小田原」であることがわかりました。試合前に「クラブ小田原」の方から、前日にすでに交流試合・交歓試合とも終えたが私たちのチームの試合相手として急遽前日夜に召集の連絡があったということ、そして地元ということもありみんな快く集まり、試合相手を務めることになったことを、お聞きしました。私たちは、感謝の気持ちでいっぱいでしたが、あくまでねんりんピックでの一勝が目標でしたので、全力で試合に挑みました。2 回まで相手にリードされる展開でしたが、3 回に打線の繋がりで逆転し、勝利することができました。勝利の喜びと共に、試合相手を務めていただいた「クラブ小田原」の皆様への感謝の気持ちで胸いっぱいになり、大会を無事に終えることができました。今後は、令和 7 年のぎふ大会への出場と交流試合での一勝を仙台 SSC の目標とし、チームの和を大切にしながら活動していきたいと考えております。（文責：成瀬秀治）



試合会場で、笑顔のチームメンバー。



ねんりんピックでの一勝を目指した仙台 SSC。



## ペタンク 「仙台泉」(選手)

ほり たく じ  
堀 卓次さん

90 歳

● 参加歴：5 回目

## 生涯スポーツとして取り組み、高齢者賞受賞

コロナ禍でぎふ大会が令和2年、3年と延期、中止になり、神奈川県での大会には仙台市大会準優勝の「仙台泉」が出場することに決まりました。このチームでのねんりんピックの参加は初めてとなります。実は、当初参加予定だった方がドクターストップで参加できなくなり、補充のため急遽私の参加が決まったのです。私のペタンク歴は26年。生涯スポーツとして取り組み、面白さ、奥深さを楽しんでいました。また、ねんりんピックは、平成10年の愛知・名古屋大会に参加し、ベスト8に入りました。その後も茨城県、石川県、栃木県と出場し、今大会が5回目の参加となります。

11月11日、仙台市選手団は新幹線で東京駅を經由し、横浜に午後4時頃着きました。12日はコロナ禍のなか3年ぶりに、総合開会式が横浜アリーナにおいて開催され、三笠宮彬子女王殿下ご臨席のもと、大会テーマを掲げ、各選手団代表5名の入場行進、モニュメント点灯などが繰り広げられ感動しました。ただ、新型コロナウイルスの影響で会場では昼食も黙食になり、交流ができなかったことが本当に残念でした。終了後はバスで大井町に移動、開始式に臨みました。受付で高齢者賞受賞を告げられ、思いがけず興奮しました。宿泊所のウイスタリアンライフクラブヴェルデの森に、バスで1時間揺られて着いたのは夜の7時頃でした。宿の夕食、温泉は最高のおもてなしでした。

13日は午前9時から大井町山田総合グラウンドを会場に、予選リーグ戦が展開され、私たち「仙台市」は第1試合で島根県と対

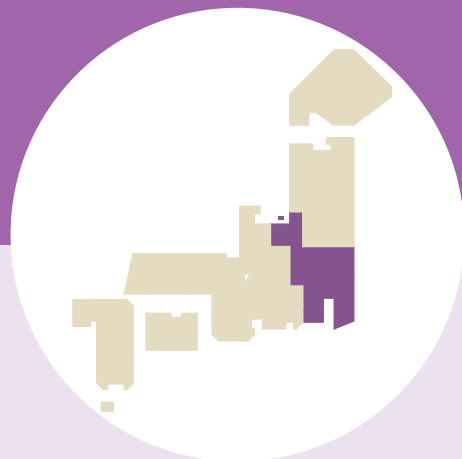
戦し、ボールを弾き飛ばされ6対11で負けました。第2試合はチームワークと平常心を取り戻し茨城県に11対4で勝ち、第3試合は青森県に11対3で勝利。2位通過で決勝トーナメント戦進出を決め、ほっとしました。予選リーグが終わって対戦4チームはテントの中で土産交換をし合い、ペタンク談義に花を咲かせ、鳥取で再会しようとお互いの健闘を讃えました。

14日は午前9時から決勝トーナメント戦、1回戦は岡山市と対戦し、7メースで6対7の1点差に追いつきましたが、私の投球がビュットを動かし相手側に大きく5点を与えて致命傷になり、10対13で惜敗しました。ペタンクの怖さを思い知らされ、チームメイトに迷惑をかけたことに悔いが残るねんりんピックになりました。しかし、共に行動した「ねんりんピック」を楽しい思い出に。大会関係者に心より感謝申し上げます。



チームメンバーと笑顔で記念撮影。(左から2番目)

# 関東・甲信越



p.14 茨城県

松浦 剛さん



ダンススポーツ

p.15 栃木県

溝井代次さん



ターゲット・バードゴルフ

p.16 栃木県

伊藤 武さん



ソフトテニス

p.17 群馬県

辻川嘉彦さん



卓球

p.18 東京都

長島雄己さん



サッカー

p.19 山梨県

小俣照彦さん



ソフトバレーボール

p.20 長野県

竹内弘子さん



ソフトバレーボール





## ダンススポーツ

「茨城県ダンススポーツ」(選手)

まつ うら ごう

松浦 剛 さん

66 歳

● 参加歴：3 回目

### 強豪をおさえ、団体戦で驚きの日本一！

11 月 13 日(日)、カルッツかわさきで開催された「第 34 回全国健康福祉祭」のダンススポーツ交流大会・団体戦で、茨城県が「優勝」しました。(1 チーム 4 組：監督 永井彰、チャチャチャ(C) 初見甚・初見智恵子組、ルンバ(R) 平沢一夫・平沢恵子組、ワルツ(W) 松浦剛・松浦直美組、タンゴ(T) 五十嵐隆則・五十嵐めぐみ組 計 9 名)

「ねりんピック」の名称で親しまれ、毎年開催されてきた「全国健康福祉祭」はコロナ禍で中断されていましたが、2022 年 11 月 12 日(土)～15 日(火)まで神奈川県で 3 年ぶりに開催されました。

11 月 12 日(土) 午前に横浜アリーナで開催された「総合開会式」は、三笠宮彬子女王陛下ご臨席のもと、47 都道府県と 20 政令指定都市から参加した監督や代表選手、関係者など約 1 万 2 千人が一堂に会する圧巻の式典でした。

11 月 13 日(日)のダンススポーツ交流大会は、朝の開会式直後から「個人戦」のラテン(C と R)と午後一番で同スタンダード(W と T)が実施され、「団体戦」は 15 時半から 18 時過ぎまで、長時間にわたる交流大会でした。

#### 【個人戦】

ラテンのチャチャチャに 156 組、ルンバに 158 組のエントリーがあり、1～4 次予選・準決勝・決勝と行われます。同様に、スタンダードのワルツ・タンゴ各々へ 187 組が出場しました。国内のダンススポーツ大会で参加組数が 600 組を超えるのは、コロナ禍が始まって以来“初”となる最大規模でしょう。特筆すべきは全ての選手が 60 歳以上のシニアであること、ね

りんピックが「シニアの国体」とも呼ばれる所以です。

この個人戦で初見組が C と R の両種目で優勝し、平沢組は C、R、W、T の 4 種目全てにおいて決勝戦へ進出しました。

#### 【団体戦】

32 都府県と 11 政令指定都市の代表 49 チームが参加する団体戦は、1～3 次予選、準決勝、決勝が行われ、茨城県ダンススポーツは決勝(ベスト 8)に進出できました。主催地の川崎市代表は 2 チームとも決勝進出という強豪でしたが、表彰式において「第 1 位は茨城県！」と発表された瞬間、私たちチーム全員が飛び上がりました。喜びの日本一です！

「久しぶり、元気だったあ？」や「会えてうれしいねえ！」などの言葉で始まったダンススポーツ交流大会は、全参加者がコロナ禍を乗り越えて再会できた喜びと共に旧交を温められる、最高の 1 日となりました。



左から松浦組、平沢組、永井監督、初見組、五十嵐組。(左端)



## ターゲット・バードゴルフ

「イチゴ とちぎ」(選手)

みぞ い しろ つぐ  
溝井 代次 さん

70 歳

● 参加歴：1 回目

## 地道な練習と情報収集が結実し、優勝！

今回、初めてねんりんピックに参加しました。以前にも声をかけていただきましたが、開催地が遠方のことが多く、参加を見送っていました。昨年、岐阜での大会にも参加予定でしたが、コロナウイルスの影響で中止になり、出場が叶いませんでした。

ねんりんピックかながわ 2022 への出場に向けては、まず県の予選大会に参加し、上位入賞し、代表権を獲得しました。大会前には、競技予定のコース案内が来たので、これを見ながら地元の所属コースに大会本審を模したコースを設定し、練習を重ね、距離感を養いました。さらに、ねんりんピックの会場となる神奈川県綾瀬市のコースは常設ではなく、プレーしたことがない県外の選手は不利との話もあり、風の状況などの情報収集に努めました。また、たまたま神奈川県のターゲット・バードゴルフ (TBG) クラブに顔見知りが出て、その方から大会前日に「風と飛行機の騒音に注意」とのアドバイスを受け、意識するようにしました。

案の定 1 日目は強風で、9 ホールまでプレーしましたが、続行が困難となりノースコアになり、2 日目限りの大会となりました。1 日目終了後、強風対策として、日本 TBG 協会全国大会と全日本 TBG 協会全国大会の元優勝者と練習を行い、攻め方などの確認をしながら 2 日目に備えました。

2 日目も強風でし

たが、平常心で着実に攻めようと意識し、周囲のプレーヤーに対抗せず基本を守りプレーしました。

全日本 TBG 協会の競技では何度か優勝していましたが、日本 TBG 協会の競技者と一緒に戦うのはねんりんピックのみなので、ここで勝って初めて本当の日本一となれると考えていました。

多くのプレーヤーが風の影響で乱れる中、結果は諸先輩たちを抑えての優勝。喜びと感謝で感無量です。地道な練習と、先輩たちのアドバイスによる情報収集、そして一緒にラウンドしてくださった同伴競技者の方たちとの親睦・交流により、頂点に立てたのだと思います。地元栃木に戻っても、さらに地域活性化と交流、そして後輩の指導育成に努めたいと考えます。

現地までの誘導、現地での応援など、県のスタッフの方々には大変お世話になり感謝いたします。また、大会を盛り上げるためにオープン参加されたプレーヤーの皆さん、そしてコース設置や整備をしてくれた現地スタッフなど、多くの方たちの支えの上に結果があります。ありがとうございました。



栃木県選手団「イチゴ とちぎ」の皆さん。(左端) 表彰式で喜びがこみ上げる。(右から2番目)



## ソフトテニス 「ストロベリー」(監督兼選手)

い どう たけし

伊藤 武さん

68歳

●参加歴：1回目

## チームワークと精神力で勝ち取った日本一

2022年10月、栃木県で「いちご一会とちぎ国体」が開催され、若者たちの素晴らしい活躍に感動しました。国体が終わり、次は私たちシニアの出番です。ねんりんピック栃木県代表には、キャリアと実績のある頼もしいメンバーがそろいました。

総合開会式会場は横浜アリーナ、入場行進はコロナ禍のため代表者のみでした。観覧席には日本全国から集まった役員、選手団がそろい、素晴らしい風景でした。

開会式終了後、バスでソフトテニス会場の小田原アリーナへ移動し開始式を行い、宿泊先の箱根高原ホテルへ到着したのは19時を過ぎた頃でした。疲れきってホテルの部屋に入ると、岐阜県チームとの相部屋でした。

11月13日の試合当日、相部屋の岐阜県チームとは会場が分かれることとなり、朝6時に朝食をとり、お互いの健闘を誓い合い出発しました。

予選リーグは、堺市、三重県、新潟市、栃木県で総当たりし、3勝0敗で1位となり、1位トーナメントへ良い出足となりました。試合終了後、バスの時間を待つ間にマッサージをしたり、コンビニでビールを買ったりして皆さん余裕を見せていました。

ホテルに着き勝利の報告をすると岐阜県チームも1位トーナメントへの進出が決まっており、お互いに良い報告ができました。

11月14日、お互い頑張ろうと誓い小田原会場へ出発。1回戦はシードで、2回戦で岡山県に2-1で勝利。3回戦は東京都Aに2-1で勝利。我がチームの近藤・鈴木ペアの相手は、近藤選手の以前のダブルスのパートナーでもあ

り、やりづらそうでしたが、辛うじて4-3で勝利。準決勝、兵庫県に2-1で勝利。そして決勝戦の相手は健闘を誓い合った岐阜県チームとなりました。

開始のあいさつ時はすでに日も沈み暗くなっていましたが、お互い頑張ろうとエールを交換し、試合が始まりました。1-1で迎えた3試合目、岸・釜石ペアが1-3とリードされ絶体絶命。ここから2人の粘り強いプレーで徐々に挽回し3-3のファイナルゲームに突入。デュースで息詰まる展開となりました。ここから岸・釜石ペアの驚異の粘りと精神力で、勝利を得ることができました。

初めてのねんりんピック出場で日本一になって本当に幸せです。生涯忘れることができません。最後に、社会福祉法人とちぎ健康福祉協会

の皆様、またこの大会に係わった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



予選リーグ1位で決勝へ! (右端)

接戦を制した「ストロベリー」のメンバー。  
(後列左端)





## 卓球 「群馬フレンズ」(監督兼選手)

つじ かわ よし ひこ

辻川 嘉彦さん

71 歳

● 参加歴：1 回目

### 全力投球で趣味を楽しむ！

ねんりんピックかながわ 2022 には夫婦で参加しました。種目は、経験年数が 55 年の卓球です。

卓球には硬式とラージボールの 2 種類があります。オリンピックや世界選手権で採用されるのが硬式。それに比べ、ラージボールは初心者でも楽しめるようにと、ネットが 2cm 高く、ボールは直径で 4mm 大きく、かつ軽いものが使われます。また、ラバーにも制限があるためボールに回転がかけづらく、スピードも弱まり、ラリーが続きやすいのが特徴で、昭和 63 年に日本で考案されました。ねんりんピックの卓球は、ラージボールで行われます。

私は定年後、練習時間が豊富になったので、硬式卓球を続けながら 5 年前にラージボールを始めました。練習仲間からねんりんピックについて「群馬県の参加チームは親睦最優先の選手選抜のため、県内で予選を実施する県との対戦では例年全戦全敗だ」と体験談を聞き、負けず嫌いの血が騒ぎ、県内大会の入賞仲間を誘って 6 名で参加することになりました。

横浜アリーナでの素晴らしいオープニングセレモニーを堪能した後、横須賀アリーナでの大会では、予選リーグで全勝の 1 位となり、優秀賞メダルを手にしました。残念ながら 1 位同士での順位決定戦では惜敗しましたが、全国各地の選手との対戦や、会場近くの日帰り温泉、横須賀市内での食事会、帰路途中の横浜中華街での夕食など、充分楽しむことができました。

今回対戦した、香川県、新潟県、京都府には過去の全国大会で対戦した選手もおられたので、笑顔で挨拶。また、私が生まれ育った大阪

の選手団には、20 歳の時に結婚のきっかけとなった、大阪代表として東京体育館での全国大会に参加した時の監督がおられ、50 年ぶりの再会に懐かしく妻と 3 人で話が弾みました。

最近では 70 歳になったこともあり、30 年間活動した地域の卓球クラブの代表を若手に引き継ぎ、念願の近隣中学の外部コーチとなり、団体戦で初の県内 3 位となり、関東大会の代表権を獲得できたことを皆で喜び合いました。そして外部コーチも参加可能な全国教職員大会に初参加で優勝し、関東ラージボール大会でもシングルスでの優勝と妻の 3 位入賞が叶い、うれしいことが続きました。

今後も顧問の先生と力を合わせて中学生を指導するとともに、ベテラン大会を中心に年間 60 大会への参加を継続し、夫婦共通の趣味でもあるゴルフや、温泉旅行も精一杯楽しみたいと考えています。



チーム「群馬フレンズ」で記念撮影。(左端)



## サッカー 「東京都 B」(監督兼選手)

ながしま ゆう き

長島 雄己さん

64 歳

● 参加歴：2 回目

### 前回の銅メダルを糧に、金メダル獲得！

いよいよ3年ぶりに「ねんりんピック」が開催され、わくわくしながら開会式会場に向かいました。とは言え、まだまだコロナ禍での開催で、大会関係者およびスタッフの皆様には大変なご苦労がある中で実施していただき感謝申し上げます。

私ども東京都サッカー B チームは前回の和歌山大会では銅メダルであったので、今回はぜひとも銀メダル以上を目指そうと、良い緊張感で会場入りしました。

本大会は2日間で3試合というややハードなスケジュールで行われるため、選手の交代やペース配分も重要なポイントとなりますが、我が東京都 B チームはメンバー総勢 14 名と少数精鋭ですので、監督の采配がさらに重要となっていました。

そんな中でも初戦は2-0で勝利し、初日を終わりました。2日目の2戦目は4-0で快勝し、最終戦のピッチに向かいましたが、前半早々1失点。後半となり、時間は進むもゲームは0-1のまま膠着状態が続き、残り時間も僅かで敗戦濃厚になっていた終了3分前に、エースが同点弾をゴールに叩き込み、1-1の引き分けで

試合を終えました。結果は、2勝1引き分けでしたが、得失点差で上回り、金メダル獲得となりました。

東京都は A・B の2チームで参加しており、A チームも金メダルを獲得し、ダブル優勝という最高の結果で今大会を終えました。

私個人は、今回が2回目の参加となりますが、他県の代表チームと対戦できたことが良い経験となっていますし、試合前後に他県選手の方たちと交流できることも大変有意義に思います。

また今回4日間をともに過ごしたチームメイトは普段別チームで対戦しているメンバーですが、この大会のために選抜され、大会前にはテストマッチを数回重ね、チームの雰囲気も良くなって本大会を迎えていました。

大会前日は中華街で盛り上がりったり、横浜の街を散策したりしたことも貴重な思い出になりました。

この後はまた、東京都シニアリーグで対戦相手として別チームで戦うこととなりますが、次回の東京予選を勝ち抜き、再び「ねんりんピック」に参加できるよう、日々精進していきたいと思います。



第一試合、守備につく東京都 B チーム。(左上ゼッケン 20 番)



優勝を手にした東京都 B チーム。  
(後列左から 2 番目)



## ソフトバレーボール 「都留市 ルパン」(選手代表)

お また て る ひ こ

小 俣 照 彦 さん

60 歳

● 参加歴：1 回目

### 念願の全国大会出場でブロック優勝

バレーボールの経験はありませんでしたが、40歳過ぎてから妻の友人からチームに誘われて始めたソフトバレーボール。楽しさに気づき、週に1～2回の練習と年に数回の地域の大会に参加していました。

始めてから3～4年経ち、県の試合にも誘われ、「都留市 ルパン」チームに妻と入部しました。

そこから試合での緊張感を体験し、「勝ちたい」「上手になりたい」と強く思うようになりました。

現在、都留市 ルパンは、20代から70代の男女28名で和気あいあいと活動しています。これまで、男女混合での全国大会予選の結果は、最高で準優勝でした。

しかし、今年は60歳になるメンバー3人のパワーもあり、ねんりんピックの県予選で優勝！「全国大会出場を楽しみながら勝つ！」を目標に練習をした結果、県予選で優勝することができ、その夜はみんなで優勝を分かち合い、慰労会も盛り上がりしました。

そして「ねんりんピックかながわ2022」に出場。令和4年11月13日の予選は、千葉県チームに2-0で、奈良県チームにも2-0で勝利

し、1位通過しました。

翌日11月14日は、1位リーグで接戦の末、新潟チームに2-0、徳島チームに2-1で勝利。結果1位リーグブロック優勝となりました。

ねんりんピックが終わり、応援してくれたメンバーと共に戦った「絆」を感じ、60歳過ぎてスポーツで勝負することへのこだわりと喜び、楽しみを感じ、本当にいい思い出になりました。大会に携わっていただいた方に感謝です。

来年もまた県予選を優勝し、愛媛でのねんりんピックに出場するぞー！



試合終了後に、1位のポーズで撮影。(後列左から2番目)



県での報告会で副知事を囲んで。(前列左から3番目)



## ソフトバレーボール 「南風」(選手代表)

たけ うち ひろ こ

竹内 弘子さん

61歳

● 参加歴：1回目

### 「あきらめるな」監督の一言で危機脱却！

私たち「南風」は、長野県大町市で活動しているソフトバレーボールのチームで、結成から25年が経ち、今は15人で練習しています。週2回の練習は、よいストレス発散にもなり、チームの年齢はちょっと高めですが、みんなで楽しく練習しています。

昨年、60歳以上の種別の県大会があると聞き、参加することにしました。コロナ禍でなかなか大会に参加できず、久しぶりの大会でした。そしたら、あれよあれよという間に優勝。長野県代表としてねりんピックに出られることになったのです。これも今までの練習の成果だと、みんなで素直に喜びました。初出場です。

全国のソフトバレーボールの仲間と会えること、一緒に試合ができることに、ワクワクする気持ちでいっぱいでしたが、一方で6月の県大会から11月のねりんピックまで期間が長く、モチベーションを保つのが大変でした。

しかし、チームメイトの協力もあり、準備万端で迎えた「ねりんピックかながわ2022」。1日目は予選リーグ戦。2試合行い2勝したので、2日目の順位別リーグ戦は1位グループで試合をすることになりました。

2日目のBコート9試合目、この試合に勝てばグループ優勝が決まる大切な試合。相手は福岡県代表のチーム。1セット目を取られ、2セット目も15点マッチで14点を先に取られ、後がなくなりました。みんながあきらめかけていたその時、監督がタイム

を取ってかけた一言が「あきらめるな。あきらめたら終わりだぞ」。この一言で、チームが一つとなり、何とか2セット目を取ることができました。

いよいよ勝敗がかかった3セット目。まわりを見ると試合をしているのは私たちのコートだけです。ほかの選手は2階の観客席から私たちの試合を見ていました。役員やスタッフの人たちも、私たちのコートのまわりで試合を見ていました。こんなにたくさんの人たちが見ている前で試合をするのは初めてです。緊張する～。でも試合に全集中!!

みんなの気持ちを一つにしてプレーし、15対13で何とか勝つことができました。グループ優勝です。

優勝できたことも嬉しかったのですが、試合が終わった瞬間、体育館に響きわたるくらいたくさんの拍手をもらったことが、涙が出るほど嬉しかったです。こんな経験は2度とない、と思いました。思い出に残る良い大会でした。

最後に、この大会を支えてくださったスタッフ、ボランティアの皆様ありがとうございました。

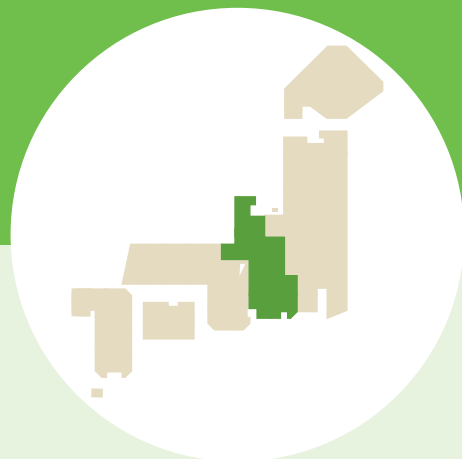


初出場ながら全集中で試合に臨んだ。(中央でレシーブ)



あきらめずに戦い優勝したチーム「南風」。(右端)

# 東海・北陸



| p.22 岐阜県                                                                            | p.23 静岡県                                                                            | p.24 静岡県                                                                            | p.25 愛知県                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 松居正樹さん                                                                              | 水島ともえさん                                                                             | 袴田進吾さん                                                                              | 鈴木利和さん                                                                                |
|  |  |  |  |
| テニス                                                                                 | インディアカ                                                                              | サッカー                                                                                | スポーツチャンバラ                                                                             |





## テニス 「清流につぼん ど真ん中」(監督兼選手)

まつ い まさ き  
松居 正樹 さん

70 歳

● 参加歴：1 回目

## 高齢者が輝くねんりんピックで幸せを実感

高齢者にとって、健康、社会参加、生き甲斐、ふれあいは最重要テーマです。私は今回、初めてねんりんピックへ参加しましたが、このような課題克服の一助が大会の意義だと知りました。また、ねんりんピックの関係各位の準備や配慮にも感心しました。大会前に配布された行動マニュアル、横浜の地下鉄駅構内の歓迎ポスター、大会会場での多数ののぼり旗、大会特製弁当等々には驚きました。会場周辺では関連イベントも多く開催され、参加人数が延べ62万人というのにもびっくりしました。これは、ねんりんピックが高齢者のみならず、多くの若者の参加の上に成り立っているからだと思います。総合開会式では、岐阜県選手が全員集合しました。同じユニフォームで、同じ思いを持つ多くの仲間がいて大変心強く思いました。日本に生まれて本当に幸せだと思いました。

我々テニスチームは、3月27日の岐阜県予選、10月8日の岐阜県結団式、各市町村での激励会を経て、11月11日から14日の本大会に臨みました。大会を控えた11月2日には全選手が集合し、練習会と共に、今後のスケジュールと体温・体調記録アプリケーション「GLOBAL SAFETY」によるコロナ対策の確認を行いました。試合初日の予選リーグでは、名古屋市に3対0、埼玉県に3対0、北九州市に2対1で勝つことができました。2日目の1位トーナメントの初戦で神戸市と対戦し、70歳男子は惜しくも敗れ、60歳女子は勝ちました。運命の60歳男子はタイブレークの末に敗れ、1対2で1R敗退となりました。予選と本戦を通じて、60歳女子は安定した戦いで、ど

のチームと対戦しても勝利すると思われました。一方、70歳・60歳男子は、それぞれ持ち味を発揮しましたが、宿題が課せられた形になりました。しかし、大会を通じてメンバーの結束がより強固となり、2年後のねんりんピックに再挑戦しようと誓い合いました。

試合会場には何人か顔なじみもいて、より深く交流するきっかけとなりました。また、「ねんりんピック岐阜2021」に参加予定だった方、今は他県居住だが、岐阜県出身の方が挨拶にきてくれました。岐阜県選手団として特筆すべきは、健康マージャンで参加された97歳の服部清さんが今回の最高齢者だったことです。いつまでも健康でいたいと思いました。

最後に、このような場を与えてくださった関係各位に深く感謝いたします。ねんりんピックが、ますます発展・継続されることを望んでいます。



メダルを胸に、2年後の出場を誓い合った。(前列左端)



## インディアカ 「ウイング」(監督兼選手)

みずしま

水島 ともえさん

71歳

● 参加歴：1回目

### チームで団結し、得失点差で優勝！

「ねんりんピックかながわ 2022」への参加要請があったのは、突然のことでした。出場資格を得たからには頑張ってみようとチームで団結。ただ、大会初日はとても緊張しました。全5チームの総当たりで、5勝3敗。「明日の決勝リーグは頑張ろう！」と、ホテルでの美味しい夕食と温泉でリラックスし、2日目に臨みました。

試合では気合いが入って、全員が一戦一戦に集中し、チームワークの良さも出て7勝1敗。その1敗も、わずか1点の差での惜敗でした。他県のチーム、とくに東京都のチームは60歳以上とはいえ皆さん若く元気いっぱい、そのエネルギーに負けていたのかも、と思いました。

閉会式では、東京都のチームとの得失点差での結果待ちでした。「静岡県！」とアナウンスの音が響いた瞬間、「やった！」。まさかの優勝です。この喜びは忘れることはないでしょう。

「ねんりんピックかながわ 2022」に参加して、さまざまな感動があり、忘れられない思い出もたくさんできましたが、中でも、選手バスで他県の選手の皆さんといろいろな話ができて、シニアならではの話にも花を咲かせたことが思い出深いです。やっぱり日ごろからスポーツをやっている皆さんは元気！ 圧倒されました。ホテルでの食事や温泉を共にしたことで交流ができ、楽しく、有意義な時間を過ごすことができました。

長年インディアカをやってきて、怪我をしたこともありましたが、それでもまたコートに復帰できるよう頑張ったことが思い出されます。運動できるって楽しいです！

大会への参加をサポートしてくださった、しずおか健康長寿財団の皆さまにはチーム一同感謝しております。また、競技会場となった南足柄市の方々からは厚いおもてなしを受けましたし、さまざまな面でサポートしてくださったボランティアの方々も、本当にありがとうございました。これからも元気で、頑張ります。



優勝メダルを首にかけ、誇らしげに記念撮影。(右端)



一戦一戦に集中！



## サッカー 「藤枝フットボールクラブ」(選手)

はかま だ しん ご  
袴田 進吾さん

64 歳

● 参加歴：1 回目

### 県の勝利記録を更新。目指せ、生涯現役！

今回、初めてねんりんピックのサッカー競技に参加させていただきました。静岡県の60歳以上のチームは13チームが登録されており、1年かけてリーグ戦を行い、政令指定都市のチームを除いた上位4チームが本大会に向けてトーナメント方式で戦います。「藤枝フットボールクラブ」は昨年、これに優勝して出場権を得ることができました。

コロナの影響により2年連続で本大会が中止となっているため、出場権は得たものの開催されるか非常に心配でしたが、予定通り開催される運びとなり安堵していたところ、今年の静岡県選手団の「旗手」はサッカー競技からとのこと。初めての参加で全く様子がわからない中で旗手という大役を任され、新たな不安を抱えての参加でした。

開会式のある大会初日、新横浜駅から横浜アリーナに向かう各県の選手の多さと大会規模の大きさに驚かされ、場内の沸き立つ雰囲気の中で旗手として入場行進をさせていただいたことは非常に得難い経験でした。

開会式翌日、初戦の相手は地元の相模原A。ウォーミングアップの時間が短く、初戦の緊張感もあって苦戦を強いられましたが虎の子の1点を守り抜き勝つことができました。午後の2試合目は岐阜県各務原。相手も初戦を勝利しており、これに勝利すれば優勝に大きく近づくということで、チーム全員気合を入れ、2-0で勝利しました。2日目の相手は大分選抜。選抜チームなので苦戦を覚悟しましたが4-0で勝利し、3試合全勝、無失点でグループ優勝することができました。

優勝もさることながら、大会前、先輩達から「最近、静岡県代表は負けたことがない」とプレッシャーをかけられており、勝利記録を更新できたことにもホッとしました。

会場は3試合すべてが人工芝だったため、年寄りには足腰への負担が大きく、身体的には少し厳しかったですが、それ以上に、普段対戦できない県外チームとの試合を通じて交流を深めることができたことは非常に有意義でした。さらに会場の運営に携わってくださった関係者の方々が、出迎えから見送りまで笑顔で手を振ってくださり、親切に対応してくださったことなど非常に印象深く、気持ちよく大会を終えました。

これからも「生涯現役」を目標に健康に留意して、ねんりんピックへの出場を目指して練習に励んでいきます。

最後に大会関係者の方々、しずおか健康長寿財団の皆様には大変お世話になり感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。



無失点全勝で優勝。(後列右から2人目)



総合開会式では静岡県選手団の旗手として堂々の行進。(選手団先頭)



## スポーツチャンバラ

「小坂井童夢殿」(監督兼選手)

すず き とし かず

鈴木 利和 さん

62 歳

● 参加歴：1 回目

## 新種目で初参加。80代の剣士に大きな刺激

今回、スポーツチャンバラが新しくねんりんピックの種目に追加されたということで、非常に楽しみにしていました。

11月12日に愛知県選手団として、新幹線で横浜アリーナへ移動、そのまま開会式に参加しました。開会式は、オリンピックに引けを取らない内容で、とても感動しました。

開会式では地元アナウンサーと榊原郁恵さんがMCを務め、女優の草笛光子さんと、ねんりんピックオリジナルソングを作詞作曲された河村隆一さんがゲストで参加されました。河村さんの国歌斉唱や、ご臨席を賜った三笠宮彬子女王殿下のお言葉もあり、ほかにもさまざまな催物が開催され、あつという間の開会式でした。

さて13日はスポーツチャンバラ交流大会が鎌倉市で開催されました。選手総勢42名でのトーナメント制で5種目を戦い、個人戦入賞と、各都道府県による勝ち点ポイントの総合優勝を競いました。

選手の最高齢は85歳でしたが、とても85歳には見えないお姿でした。

愛知県からは私を含めて2名が出場しました。さて自分の結果ですが、長剣フリー種目で何とか優勝できました。総合優勝は1ポイント差で滋賀県が手にし、愛知県は準優勝となりました。ここでいいわけですが、総合ポイントは各チーム3名の勝ち点の合計で競うのですが、愛知県は残念ながら2名の参加しかなく、わずかにポ

イントが稼げなかったということです。

久しぶりの試合で緊張もあったのか、もう少しできたかなという悔しい思いはありましたが、1種目でもメダルが取れたことは良かったと思います。60歳以上とはいえ、中には現在も現役で各種大会に出ている方や、私と同じく、普段は大会役員や審判を務めている方などさまざまでしたが、70歳や80歳になっても動ける人はさすがだと思いましたし、自分もそうなりたいとあらためて思いました。

スポーツチャンバラの試合が毎年ねんりんピックで開催されると、私のようになかなか試合に出られない人も新しい目標として稽古に励めると思いますし、何より大会に参加したことが楽しかったです。

試合の合間には、鎌倉市が用意した地元の銘菓や飲み物のサービス、疲れた身体のマッサージサービスまであり、とても助かりました。競技を指揮された神奈川県スポーツチャンバラ協会の役員をはじめ、ご準備くださった鎌倉市の方々に感謝いたします。



愛知県は2人で参加し、総合で準優勝に輝いた。  
(左から5番目)



個人の長剣フリー種目で優勝！(中央)



# 近畿



|                                                                                     |                                                                                     |                                                                                     |                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| p.28 滋賀県                                                                            | p.29 滋賀県                                                                            | p.30 京都府                                                                            | p.31 大阪府                                                                              |
| 窪田幸二さん                                                                              | 松山 進さん                                                                              | 波多野正信さん                                                                             | 小森稔信さん                                                                                |
|    |    |    |    |
| テニス                                                                                 | スポーツチャンバラ                                                                           | ターゲット・バードゴルフ                                                                        | ソフトテニス                                                                                |
| p.32 奈良県                                                                            | p.33 大阪市                                                                            | p.34 堺市                                                                             | p.35 堺市                                                                               |
| 月岡麗子さん                                                                              | 角谷 豊さん                                                                              | 南野恭和さん                                                                              | 米田紀代子さん                                                                               |
|  |  |  |  |
| グラウンド・ゴルフ                                                                           | 剣道                                                                                  | サッカー                                                                                | 水泳                                                                                    |





## テニス 「チーム近江 2022」(監督兼選手)

くぼ た こう じ  
窪田 幸二さん

73 歳

● 参加歴：2回目

## 入場行進で旗手の大役も果たした充実の3日間

「ねんりんピックかながわ 2022」に滋賀県からテニス（70 歳以上男子ダブルス）の監督兼選手として出場しました。2016 年開催の「ながさき大会」に続いて2度目の出場で、滋賀県代表選手団の栄ある旗手を務め、今までにない緊張と感激を体験でき、私にとって一生の思い出になりました。

開会式後はテニスの監督会議に出席し、1 日目の行事を無事に終えた後、夕食は横浜で楽しみにしていた中華料理をチームメイトと一緒に美味しくいただき、夕食後は翌日からの試合に向けて、チームメイトとミーティングをして1 日目を終えました。

2 日目は、いよいよ待ちに待ったテニス競技です。横浜市の三ツ沢公園テニスコートに全国から 68 チームが集結し、17 グループに分かれての予選リーグ戦（1 グループ 4 チーム総当たり戦）を行いました。愛知県から子どもと孫が応援に駆けつけてくれたので、私はいつも以上に力が入りましたが、何とか 3 勝 0 敗で終え、チームも全勝して予選リーグ第 1 位通過で2 日

目を終えました。私の出場する 70 歳以上男子ダブルスが初戦なので、勝って次のペアに勢いを渡していくことの重要性を改めて痛感しました。

3 日目は、第 1 位グループのトーナメントに参加しました。2 回戦で開催県の神奈川県と対戦し、初戦を落として流れをつくれず、チームも惜しくも 1 勝 2 敗で敗退しましたが、優秀賞のメダルをいただきました。神奈川県は準優勝されましたので、負けはしましたが、悔いはなし。全国には私より上手な方がたくさんおられることを改めて痛感し、今後の励みになる大会となりました。機会があればまた出場したいと闘志が湧いてきました。

試合の合間には他府県の方から、「滋賀県の〇〇さんとはテニスの試合でお目にかかったのですが、お元気にされてますか？」とお声をかけていただきました。これがまさに交流大会なのだと実感しました。

今大会は体温・体調管理の徹底、抗原検査の実施などコロナ対策を万全に期した大会となり、ご尽力されました関係者の皆様、今大会で親しくなった方に厚く御礼申し上げます。そしてチームの皆さん、本当にありがとうございました。



開会式の入場行進では滋賀県代表選手団の旗手を務めた。(先頭)



チームメイトと勝利を誓う。(右から2番目)



## スポーツチャンバラ 「滋賀県」(監督兼選手)

まつ やま すすむ

松山 進さん

77歳

●参加歴：1回目

### 感謝と感動、そして優勝。生涯忘れられない大会に

「ねんりんピックかながわ 2022」大会に少数精鋭の3名が参加し、団体戦で優勝することができました。

2019年当初、日本スポーツチャンバラ協会本部の責任者から神奈川大会で競技として実施されるとの案内を受け、即座に参加しようと決めました。そもそも、ねんりんピックでのスポーツチャンバラの開催は初めてです。滋賀県庁に顔を出し、紹介してもらった滋賀県社協の担当者からネットでの入力方法などきめ細やかなアドバイスをいただき、なんとか申し込みまで辿り着けました。

コロナ禍の第8波が懸念される状況下、健康管理には特に気をつけて過ごし、申込者全員が参加することができました。もともと60歳以上の該当者は限られている中で、予定していた選手要員が1名、2名と欠けていくなど心配もしましたが、必要最少人数の3名が確保できたのです。本来ならば開会式・閉会式にも参加するべきですが、まだ就労している参加者もいたため、一緒に行動することを優先し、ともに優勝を目指し「団結・規律・士気」をモットーに連絡を密にして日々の稽古に励みました。

試合は基本動作に加え、打突競技の得物は小太刀(1m)、長剣(フリー1m)、ショート(1m以内)、ロング(2m以内：槍・棒・等)の5種目形式です。一戦一戦、強豪たちと剣を交えながら勝ち上がり、1位から3位までが1点差という接戦を制して最高の結果を残すことができました。

試合前日は時間の余裕があり、名所旧跡

を観光して鎌倉市民の懇切丁寧で心温まる対応に接し、深く感銘するとともに勉強をさせていただきました。例えば、道を尋ねれば、その場所まで同行してくださることもありました。

会場の設備も立派で、おもてなしは至れり尽くせり。親切なスタッフや医療従事者の方々から、手もみマッサージに低酸素機器の設置、飲料・記念品の提供など、満足のいく対応をしていただきました。大会スタッフ、滋賀県社協の皆様、本当にありがとうございました。

「継続は力なり」。若い世代と交流して身体を動かし、いつまでも若々しく健康で元気に過ごしたいとの思いから、ウォーキング、ジョギング、ウエイトトレーニングに、もちろんスポーツチャンバラにも精を出しています。その時々での体調と相談し、休息日を設けながらではありますが、かれこれ50年は続けてきました。この先も、体力の続く限り頑張りたいと思います。



チームの総力で優勝トロフィーを獲得。(表彰台中央左側)



## ターゲット・バードゴルフ

「京都北都」(選手代表)

は た の まさ の ぶ

波多野 正信さん

82歳

● 参加歴：6回目

## 健闘を称えあった宝物のような思い出

都ホテル京都八条において京都府選手団の結団式が挙行され、知事の激励を受けて、選手のうち136人は新幹線で一路静岡へ。静岡からはバスで湯河原温泉へと赴き、夜は一同で会食し、明日からの大会に向けた決意表明とともに楽しいひとときを過ごしました。

翌12日は早朝からバスに揺られて総合開会式会場の横浜アリーナに。全国から集まった色とりどりのユニフォームに包まれた選手たちは元気いっぱい。岐阜大会がコロナ禍のため中止となり3年ぶりのねりんピック。くしくも旗手を拝命し、皇族観覧のアリーナ場内を緊張と感激で行進した思い出は私の宝物となりました。

出場競技は「ターゲット(標的)」「バード(鳥)」「ゴルフ」の3語をつなぎ合わせた名称で、略称TBGといい、文部科学省指定の生涯スポーツのひとつとして、ねりんピックの正式種目として認められています。ルールはゴルフと同じで18ホールを回り、パー72の最小得点を競います。ゴルフと異なるのは、クラブがピッチングまたはTBG専用の1本であり、フィニッシュが地面から50cmの高さに設定されたパラソルを逆さにしたようなホールに入れることです。

さて、今回の大会は綾瀬市での開催。風は強いとの前触れどおり、自衛隊厚木基地に隣接する綾瀬スポーツ公園に着くと8～10mの風がありました。基地から離着陸する飛行機は、高さ10m前後の操縦士の顔が見えるほどの近さで会場の上空を駆け抜けます。そのたびに、なおの強風と騒音にさらされました。その影響もあり、残念な

がら1日目は競技が遅れてノーゲームに。2日目のみの成績で順位が決まることになりました。

私は今回で6回目の挑戦でした。2007年「いばらき大会」では当時の舩添要一厚生労働大臣から直接、5位のメダルを首に掛けていただき感激したことを思い出します。2016年「ながさき大会」では優勝をいただき、今回も頂点を目指して頑張りましたが、残念ながらゴールドシニアの部で5位となりました。

今回、京都府からは選手4名が参加。ゴールドシニアの部優勝(杉山)、同5位(波多野)、女子の部3位(小谷)と、これまでにない健闘を残しました。そして翌日、鎌倉を観光して帰路につきました。

最後になりましたが、大会運営にかかわられた神奈川県の皆様、京都府選手団を支援いただいた京都SKYセンターの皆様には大変お世話になり御礼申し上げます。



最高の思い出をともにした京都北都チームのメンバーと。(前列右)



## ソフトテニス 「好きやねん大阪府パートスリー」(選手)

こ もり とし のぶ  
小森 稔 信 さん

69 歳

● 参加歴：4 回目

## 「競技を楽しむ、勝敗は二の次」をモットーに善戦！

コロナ禍においての3年ぶりのねりんピックが開催できてよかった！

都会の横浜アリーナ会場での総合開会式、どんな感じかなと思いつつ向かいました。私が大阪府のユニフォームを着て参加するのは、今回で4回目になります。大阪府選手団の名誉ある旗手を務め、緊張しながらも元気に行進したことがいい思い出になりました。

旗手の大役も無事終えた後のアトラクションは、時代の流れをテーマにされた創作に「すばらしい！ 懐かしい！」の連呼が起こる記憶に残るものでした。コロナ対策、参加者への助成、配慮なども行き届いていたことに感謝いたします。まさに国を挙げての一大行事であると感じました。

その後、ソフトテニス競技会場となる小田原市へバスで移動、車中からときどき見える富士山に女性たちは大はしゃぎでした。小田原アリーナで開始式および歓迎セレモニーがありました。ここでも、地元の方々の歌に合わせた指体操や、高校生による和太鼓演奏を満喫。迫力満点の大太鼓、小太鼓で私たちの戦う気持ちを盛り上げてくれました。

2日目、宿泊先の箱根から会場へバスで移動。好天に恵まれ、ソフトテニス競技が始まりました。予選リーグ1回戦は、強豪東京Aチームとの対戦。5分間の練習後、混合ダブルス、男子ダブルス、女子ダブルスの3つのペアで団体戦を行い、先に2点取ったチームが勝ちとなります。試合開始前の郷土土産の交換後、戦闘開始。結果は、健闘むなしく0対3で敗れ、第2戦の北海道との対戦も0対3で敗退。第3戦は

福井県との戦いで、女子チームが神がかりな強さを見せて2対1と勝利し、予選リーグ3位となりました。

3日目、3位トーナメント1回戦、1対2で負けました。どのチームも若い選手が多く、レベルが高いことに驚きました。我々「好きやねん大阪府パートスリーチーム」のモットーは「競技を楽しむ、勝敗は二の次」、自分たちのできることを一生懸命に頑張ることでした。

ねりんピックに出場できた喜びを胸に競技会場を後にして、レンタカーで大涌谷、仙石原のすすき草原を見て、富士五湖一周の旅に出ました。車中では早くも観光モードに切り替わり、楽しい会話が飛び交いました。大変有意義で、このメンバーとより強い絆で結ばれたと思っています。

最後に、今回のねりんピックにご協力いただいた関係者の方々に感謝いたします。ありがとうございました。



ともに競技を楽しみ、観光を満喫して絆を深めた。(一番前)



## グラウンド・ゴルフ 「奈良県」(選手)

つき おか れい こ

月岡 麗子 さん

76 歳

● 参加歴：1 回目

### 大好きなグラウンド・ゴルフで豊かな人生を

「ねんりんピックかながわ 2022」に奈良県代表として初めて参加いたしました。主人が「ながさき大会」に出場した折、私は家族として同行しましたが、開会式がとてもすばらしく、皆さん、胸を張って行進されていました。私も一度は出場したいと思っていたのですが、今年、奈良県の予選において、運良く2位に入り、代表になることができました。奈良県代表は男性3人、女性3人です。

京都を出発して横浜のホテルに到着し、ホテルでお弁当をいただきました。翌朝、ホテルを出発し、横浜アリーナへ歩いて行きました。開会式が始まり、テレビで見ていた室伏長官や黒岩知事など有名人の方々の挨拶やパフォーマンス、アトラクションもすばらしく、感動しました。奈良県代表の入場行進では私たちも立ち上がり、せんとかんの手旗を振りました。開会式が終わると、グラウンド・ゴルフの会場である茅ヶ崎へ電車で移動です。前を見て後ろを見て6人全員揃っているかと、私たち年寄りの珍道中の始まりです。鎌倉の大仏を見学しようと、関西弁丸出しで電車、バスに乗り、ようやく見学することができました。人々に道を尋ねながらようやくホテルに辿り着き、明日はがんばろうと皆で誓い合いました。

11月13日、会場となった柳島スポーツ公園では、関係者の皆様からジュース、菓子などおもてなしを受けました。今日は2ゲームです。私が出場すると、チームの仲間が応援してくれ、チームの仲間が出場すると私も応援しました。ホール

インワンにはならなかったけれど、自分なりにがんばりました。

11月14日は風が強く、寒くて震えました。1日目の成績発表があり、4位に入っていました。今日は1ゲームの試合です。ホールインワンにならなかったのがダメだろうと思っていましたが、優勝と聞いた時、夢のようで信じられませんでした。チームの仲間も喜んでくれました。

茅ヶ崎グラウンド・ゴルフ協会の皆様、奈良の役員の皆様、お世話になりました。皆、無事に奈良へ帰ることができました。奈良県グラウンド・ゴルフ協会の皆様、田原本町グラウンド・ゴルフ協会の皆様、仲間たち、皆ありがとうございます。これからも大好きなグラウンド・ゴルフを楽しみたいと思います。そして、その魅力を伝えるべく、近所の方々、老人クラブの皆様にもお誘いしています。一人でも仲間になり、楽しい人生を送ってほしいと願っています。



珍道中も楽しんだ奈良県代表チームの6人。(前列中央)



## 剣道 「大阪市」(選手)

かく たに ゆたか

角谷 豊さん

62 歳

● 参加歴：1 回目

## 大会初参加で見つけたこれからの目標

「ねんりんピックかながわ 2022」に初参加させていただきました。昨年の「ぎふ大会」が初参加の予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大により大会が中止となり、再度大阪市の選手選考会に挑み、参加の権利をいただくことができました。60 歳になってねんりんピックに参加できることに、改めて感慨深いものがありました。

大会に向けて、大阪府、大阪市の代表選手の先生方と、週末に時間のある限り合同稽古を行い、チーム一丸となって一緒に過ごした時間も貴重な体験でした。大阪市では参加者全員による結団式があり、選手宣誓も務めさせていただきました。これもまた貴重な体験でした。

そして、横浜アリーナでの開会式を彩るさまざまな地元の方々によるアトラクション。神奈川県歴史と文化を盛り込んだ壮大なパフォーマンスは、本当に圧倒されるばかり。大勢のボランティアの方々を含め、黒岩知事を筆頭に県を挙げてのおもてなしには、感謝の気持ちでいっぱいになりました。そのような場で大阪市の旗手を務めさせていただき、貴重な体験をさせていただいたことにも感謝しております。

剣道交流大会では 80 歳以上の参加選手の先生方への表彰があり、長年にわたり剣道を続けられてきたことに尊敬の念を抱くとともに、自分自身の今後のねんりんピックでの目標ができたように思いました。各代表チームの先生方は、長年にわたり剣道修行をされてこられた精鋭揃い。大阪市チームは予選リーグ 1 勝 1 敗で決勝トーナメントには上がりませんでしたが、大会に参加して貴重な体験をさせていただいたこと

に感謝しております。「勝に不思議の勝あり、負けに不思議の負けなし」と言われますが、今回の結果を真摯に受け止め、2 年後の大会に向けて頑張る決意です。

初参加で思い出に残ったのは、大学卒業後に 1 度も会えていなかった剣道部の同級生 2 名（栃木県、香川県）、先輩 4 名（愛知県、滋賀県、神戸市）に 30 年ぶりに出会えたこと。剣道を続けていると日本のどこかでつながっており、剣道を通して再会があることを身をもって体験したように思います。そして、全国の先生方と神奈川県の地で交流することができ、まさにねんりんピックとは生涯における「交剣知愛」の場であるとわかりました。

4 日間という長いようで短い期間でしたが、初めての貴重な体験が多く、剣道を通していろいろな方々と交流をもつことができ感謝しております。最後になりますが、大会の準備並びに運営に携わられた全ての皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



チームで戦い、「交剣知愛」の場であることを実感。(左から3番目)



## サッカー 「堺市」(監督兼選手)

みなみの きょうかず

南野 恭和さん

70歳

● 参加歴：8回目

## 55年ぶりのサプライズで青春がよみがえる

選考会当初は16名いた選手が、腰痛などの理由で2人の辞退がありました（途中練習会で2人追加）。全員揃っての練習会が一度もなく、また、神奈川の大会の出発間際にお母さんを亡くされた方が不参加となり、私自身も10月初めにアキレス腱損傷で全治2カ月。結果、14名とアキレス腱損傷1名の計15名で、神奈川県に向けて波乱の船出となりました。

11日は、横浜みなとみらいで夜景を楽しみました。12日の横浜アリーナでの総合開会式は、司会は榎原郁恵ちゃん、モニュメント点灯セレモニーには草笛光子さん、メインアトラクションには、トワ・エ・モワなど懐かしい方々の出演を楽しみ、午後、チームメイトは鎌倉散策に出かけました。私は、監督会議のため観光できず、残念でした。

大会1日目、第1戦目の東京都Bとの試合は、コイントスでのキックオフが堺市となりました。東京都Bは2016年の「ながさき大会」で0対4で敗戦したチーム。今回は残り1分で追加点を入れられ0対2で敗戦しましたが、素晴らしい集中力で頑張りました。ベンチにいたところキャプテンからメンバー交代の連絡があり、慌てて出場。キックオフだけさせてもらいました。ベンチにさがる時、チームメイトをはじめ東京都の皆さんの温かい拍手を受けて感激でした。

大会2日目、観戦に来て

いたチームメイトの高校時代の同窓生が、私が中学生時代に大阪中学校体育連盟サッカー部主催の郡市対抗戦に代表選手として選抜され、共に初芝高校（現初芝立命館高等学校）グラウンドで試合をした時の左近允辰治さんでした。左近允さんは、1968年の第47回全国高等学校サッカー選手権大会に初出場の初芝高校の選手として活躍し、初優勝。のちに現在のJリーグにあたる日本リーグの日本鋼管でGKとして活躍した方です。55年ぶりに再会し、とても懐かしく話をさせてもらいました。

第2戦の仙台市、第3戦目の奈良県「奈良蹴翁」とのメダル争いの試合が終わり、堺市は3位に入賞。表彰式の後、どこからともなくかけ声がかかり、3チーム合同の写真撮影が行われました。激しい優勝争い、3位、4位争いの試合を終えて、とてもいい光景でした。いろいろなサプライズとともに青春を取り戻させてくれる素晴らしいこの大会がいつまでも続くことを願っています。



波乱の幕開けだったが、力を尽くして見事3位入賞。(後列左から4番目)



## 水 泳 50 m平泳ぎ 25 m平泳ぎ 「堺市」(選手)

よね だ き よ こ

米田 紀代子 さん

82 歳

● 参加歴：5 回目

## 手術を乗り越え、会心の泳ぎで金メダル！

神奈川県の大大会では、横浜国際プールには何度も来ていましたが、さがみはらグリーンプールは初めてだったので、とても楽しみにしていました。今回、総合開会式が横浜アリーナとのことで、神奈川県のおねりんピックへの力の入れ方というのは、やはり違うなと感じました。初めての横浜アリーナだったので、場内へ入るのに、とてもドキドキワクワクしたのを覚えています。いざ始まるとスムーズな進行、音響、照明、演出に呆気に取られる思いでした。

競技別会場への移動は大変でした。会場が広くて迷子になりそうになりましたが、選手団バスまで先導をしてくださったボランティアの方が、バスが発車するまで見届けてくださったので、とても感謝をしています。

水泳の会場はとても立派な公園内のプールでした。入口で靴の裏まで消毒し、トイレで手洗いやうがいなど、コロナウイルス対策の厳重さに驚いたことと、こうしてまで開催してくださったことに感謝の気持ちがわきあがりました。会場で対応してくださった大勢のボランティアの方にも感謝の気持ちでいっぱいです。参加できてよかった！

私は、肩関節の骨折で人工骨の置換手術をしたので、平泳ぎ以外は禁止されている選手です。1年前に平泳ぎしか参加できないとおねりんピックに申し込みをしたところ、今回この大会に参加できました。手術後2年目の泳ぎでした。結果は、50 m平泳ぎで58秒43で銅メダル、25 mは25秒56で金メダルをいただきました。

私のリハビリは水に入ると怖いもの知らず、自由に動けるのです。水泳による術後の回復に

は病院の先生も驚いていました。子どもの頃から川で泳ぎ、小学校で本格的に泳ぎを覚え、中高は水泳部、会社生活でもストレス解消のためにプールで泳いでいました。退職してからプールの会員になり、マスターの水泳大会に参加。おねりんピックがあることを知って初めて参加したのは70歳の頃でした。

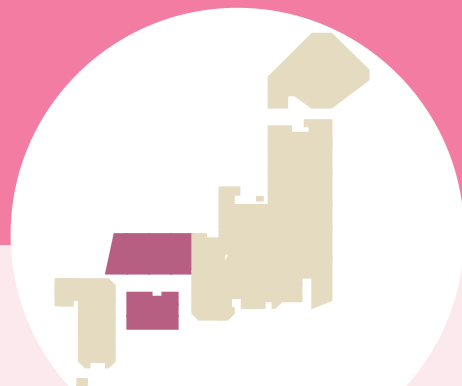
おねりんピックに参加して、マスターの大会で知り合った人たちともお会いして交流を深めました。生涯水泳！自分の足で歩けること、健康第一に健康寿命を目指して、泳ぎ続けられたらと思う82歳です。学生時代からバタフライの選手でした。今は泳げませんが、自分に与えられた運命の中で、年を重ねる覚悟です。おねりんピックは都道府県で違いがあるようですが、2年に1度、5年に2度参加できると聞きました。一人でも多く楽しい出会いがありますように！多くの人が参加されることを願います。

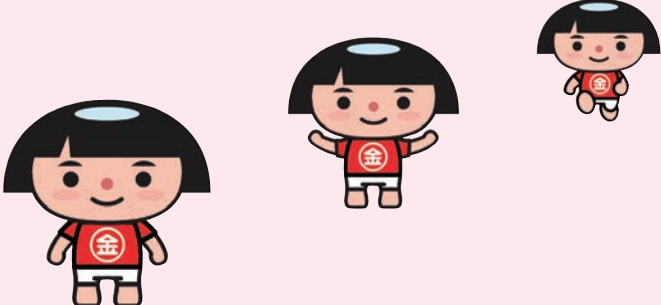


相模原市観光親善大使の2人と記念ショット。



# 中国・四国



|                                                                                                                                   |                                                                                                                               |                                                                                                                                |                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>p.38 鳥取県</p> <p>三橋裕司さん</p>  <p>ソフトバレーボール</p>  | <p>p.39 島根県</p> <p>西村和正さん</p>  <p>卓球</p>     | <p>p.40 島根県</p> <p>増野峰国さん</p>  <p>サッカー</p>    | <p>p.41 岡山県</p> <p>氏房 要さん</p>  <p>軟式野球</p>        |
| <p>p.42 岡山県</p> <p>矢吹卓彦さん</p>  <p>スポーツチャンバラ</p> | <p>p.43 山口県</p> <p>橋本 勲さん</p>  <p>ペタンク</p>  | <p>p.44 山口県</p> <p>田中健二さん</p>  <p>水泳</p>     | <p>p.45 徳島県</p> <p>木内栄造さん</p>  <p>ゴルフ</p>        |
| <p>p.46 徳島県</p> <p>福井和弘さん</p>  <p>ソフトボール</p>   | <p>p.47 香川県</p> <p>杉下良子さん</p>  <p>なぎなた</p> | <p>p.48 香川県</p> <p>佐々木 登さん</p>  <p>サッカー</p> | <p>p.49 高知県</p> <p>野村美雪さん</p>  <p>スポーツチャンバラ</p> |
| <p>p.50 広島市</p> <p>樋口 毅さん</p>  <p>水泳</p>       |                                           |                                                                                                                                |                                                                                                                                      |



## ソフトバレーボール 「鹿野フレンズさくら」(選手)

み は し ゆ う じ  
三橋 裕司 さん

66 歳

● 参加歴：2 回目

## 参加できる喜びはひとしお、記憶に残る大会に

私が参加した種目はソフトバレーボールで、男女各2名でプレーする競技です。私たちのチームは県内の大会を勝ち抜いてこの大会に出場しました。私にとっては、2回目のねんりんピックになります。

私たちのチームは、週に1回、20代から70代まで約20人で練習しています。県内外の大会にも積極的に参加しているアットホームなチームです。

前回出場した和歌山大会の後に新型コロナウイルスの感染が拡大し、大会のほとんどがなくなって気分が滅入っていました。今年はようやくねんりんピックが開催されることになり、我がチームも参加できるということでチーム全員で喜びあいました。

11月13日の試合初日は予選リーグ戦でしたが、チーム全員が会場の雰囲気のにまれ、本領を発揮できずに2敗を喫しました。翌14日は順位別の試合となり、チーム全員が前日の敗戦

を反省して、序盤からチームの持ち味を発揮。2勝して順位別で1位となりメダルをいただきました。

今回のねんりんピックはコロナ禍での開催でもあり、今までにない準備や対策が行われた記憶に残る大会となりました。大会前後の体調管理、試合中以外のマスク着用、試合前後の相手選手との握手なし、試合球や用具の消毒など、大会関係者の方々のご苦労は大変なものであったろうと思います。

この度のねんりんピックに参加することができて大変感謝しています。2024年のねんりんピックは鳥取県で開催されます。この時には私も、大会役員、選手、ボランティアのいずれかで参加して、ねんりんピックを盛り上げたいと考えています。

最後に、大会期間中にいろいろとお世話をしただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



大会に参加できる喜びを全員でかみしめた。(後列右端)



## 卓球 「神話のくに島根」(監督兼選手)

にし むら かず まさ

西村 和正さん

65 歳

● 参加歴：1 回目

## 島根県初！ 卓球で念願の日本一を獲得

私たち卓球のチームは、島根県で初めて日本一を獲得することができました。競技はラージボール卓球で6名の団体戦で戦います。シングルス4つ、ダブルス1つを行い、3勝したら勝ちという団体戦です。

今回の島根県選手団は、5月に行われた予選を勝ち抜いた選手で構成されています。住んでいる場所は松江市・出雲市・大田市・益田市と離れているため一緒に練習することが難しく、個々での練習に励み、島根県内の大会会場で顔を合わせれば励まし合っていました。

私自身、卓球は中学・高校で経験がありましたが、長いブランクの後、45歳から硬式卓球を再開し、50歳頃からラージボール卓球を始めました。チームの中には硬式卓球とラージボール卓球と両方行っている人もいますが、私は次第にラージボール卓球だけを行うようになりました。ラージボール卓球に出会えたことで、私の卓球人生は終わることなく、今現在も楽しく続けられています。

長寿日本・長寿島根県を象徴するように、生涯スポーツの一つであるラージボール卓球の輪が広がり、県内でも愛好家が増えている状況です。大会も数多く開催され、練習だけでなく腕試しを行う場もたくさんあります。今回のねんりんピックで、卓球大会の参加者の最高年齢は87歳、島根県でも同じくらいの年齢の方が活躍されています。元気であれば、体が動けば、何歳になっても楽しめるとても素晴らしいスポーツだと思います。

そんなラージボール卓球で島根県選手団として活躍できたことは、私をはじめ選手一同とて

もうれしく誇らしいことでした。先に申しましたように、住んでいる場所が広範囲であり、普段なかなか一緒に練習することができませんでした。しかし、出発当日から行動を共にすることでチームワークが徐々に高まり、一つひとつ勝っていくなかで互いに励まし、もう一つ頑張ろう、もう一つ頑張ろうと優勝へ繋げていきました。このような素晴らしい感動と喜びを体験させていただいたチームのメンバーに感謝です。

最後になりましたが、お世話になりました横須賀市の皆様、島根県の関係者の皆様に、心より感謝とお礼を申し上げます。



日頃の練習の成果を試合で発揮。



チームワークで見事優勝。(右端)



## サッカー 「島根県」(監督兼選手)

ましの みねくに  
増野 峰国さん

62歳

● 参加歴：1 回目

### 大会出場で実感した生涯スポーツの力

今春、私は腰椎を骨折し寝たきり生活を送っていた。「もう元のように走れないかもしれない」という不安に苛まれる毎日だった。しかしそんな私に所属チームの友人達は「ねんりんピック参加」という新たな目標を与えてくれた。回復が間に合わなくても参加できる「監督」という肩書きまでつけて。参加枠を譲ってくれた友人に申し訳なかった。でも、うれしかった。おかげで折れかけていた心を立て直し、リハビリに励むことができ、試合出場が可能なまでに回復することができた。

さて今回の島根県チームは、全県で3つあるシニアチームの選手で編成した混成チームである。61歳から74歳、国体経験者から私のような社会人になってサッカーを始めた者まで、年齢も経験値も様々である。東西に長い島根県では合同練習もままならず、メンバー全員が揃ってプレーするのは試合当日が初めてだった。連携など不安はあったが、メンバーを熟知するチームリーダーの松本さんが、しっかりと戦術を練ってくれた。前後半で8人が交代し、各試合19人全員が出場しグループ優勝を目指す方針で試合に臨んだ。

初戦の相手は、地元川崎市。苦戦も予想されたが、前後半ともに安定した堅い守りで0対0の引き分け。この一戦に誰もが確かな手応えを感じ、チームの士気と団結力は一気に高

まった。続く宮崎戦は勢いに乗って2対0で初勝利。2日目、互いにグループ優勝をかけた北海道戦も、前後半1点ずつをあげ、2対0で勝つことができた。

仲間を信頼し、全員がそれぞれの持ち味を発揮しながら自分の仕事をやりきった。このチームワークが、全試合無失点、前回大会に続くグループ優勝という結果につながったと思う。表彰式でみんなの達成感に満ちた笑顔を見た時、名ばかりではあったが、監督としての大きな喜びを感じさせてもらった。

今回ねんりんピックに参加して、改めて感じたのは、生涯スポーツの力、価値の尊さである。みんな還暦を過ぎても少年のように瞳を輝かせボールを追っていた。好きなスポーツを続けることで、それを楽しめるだけの気力、体力、技術を維持している。声をかけ合い励まし合える仲間がいる。なんと豊かな人生だろうか。

私もこの大会を通し、自分自身のたくさんの幸せに気づかせてもらった。仲間への感謝の気持ち忘れず、これからも自分なりの年輪を、一年一年刻んでいきたいと思う。



グループ優勝を果たした仲間たちとともに。(前列左端)



## 軟式野球 「倉敷フレンズ」(選手代表)

うじ ふさ かなめ

氏房 要さん

74 歳

● 参加歴：2 回目

### 競技種目を越えた新たな出会いと交流に感謝

「ねんりんピック」は国・県等の主催事業のため、いつものことながら総合開会式をはじめ、全てにおいて目を見張るものがありました。特にメインアトラクション「～昭和・平成・令和そして未来へ～」は、我々の過ごした懐かしい時代から未来に向かうというテーマで、同世代の参加者にとっては大いに感動させられる総合開会式でありました。

軟式野球交流戦大会においては、宿泊ホテルから競技会場に我々チームのアテンド（ボランティア）が配置されており、競技運営に支障の出ないように配慮されていました。

大会期間中は「おはようございます。今日もよろしくお願いします」から始まり、常に我々チームのサポートをしていただきました。ボランティアの一人は偶然にも倉敷出身とのことで、いろいろと話が盛り上がり、親近感がわいて自然と交流の輪ができました。

大会最終日、我々チームのサポートをしてくださったボランティアの方々に対し感謝を申し上げました。「我々がここまで活躍できたのは皆さんのおかげです。皆さんは我々のチームの

一員でした」とあいさつして受賞したメダルを渡しましたところ、大変に喜ばれ、感動的な別れとなりました。

大会期間中の観光ツアー（川崎工場夜景クルーズ）も思い出に残っています。観光ツアーに参加する場合、計画輸送では帰りは最寄りの駅までとなっていたましたが、我々選手は手荷物がたくさんあったため、宿泊ホテルまでお願いできないか市の職員・観光ツアー担当者に相談したところ、快く宿泊ホテルに変更していただくことができました。関係者の臨機応変な対応に感謝いたします。

また、川崎工場夜景クルーズ船内では、他のグループの方々と同席することになり、船内では一緒に歌を歌ったりして大いに盛り上がり、素晴らしい交流ができました。川崎工場夜景クルーズ計画を行った行政担当の方も、「県、競技種目も異なる選手がいろいろな人と出会い、交流が持てました」とねんりんピックの目的である交流の促進ができたと安堵しておりました。

今回参加してみて、開催県の市町村の温かいおもてなしや、思い出に残る企画を作っていただいたことに感謝を申し上げるとともに、地元行政機関の関係者のご努力にお礼を申し上げます。

「ねんりんピック」バンザイ！ そして感動をありがとう。



準決勝に勝ち、チームメイトと喜びを分かち合った。  
(前列右から 3 番目)



工場夜景クルーズでは他競技の選手とも交流。



## スポーツチャンバラ 「岡山県スポーツチャンバラ協会」(監督兼選手)

やぶき たか ひこ  
矢吹 卓彦さん

69 歳

● 参加歴：1 回目

### 初出場仲間と対決、一生の思い出に

岡山県スポーツチャンバラ協会からねんりんピックのお話をいただいた時、私は大会のことを全然知りませんでした。その後、二度の説明会に出席し、毎年全国で開催され今年は34回目とのことで、大変大きな大会だと知り驚きました。何の前知識もなく不安がありましたが、神奈川はスポーツチャンバラの発祥の地で本部もある場所。私自身、世界大会に参加して以来訪れておらず、会場は当時話題の大河ドラマの地・鎌倉と知って、これは最高の舞台だと思い、手を挙げました。

私はスポーツチャンバラを始めて30年で、現在は総社武道館で約30名を指導しています。練習生は子供が多く、一般も40歳くらいまで。私のようなシルバー世代は少なく、他に参加する人がいなければ不参加にしようかと思っていたところ、瀬戸内市の秋山さんに手を挙げていただいたので、2名で参加することになりました。秋山さんはスポーツチャンバラ歴がまだ2年ほどで、会社を経営されて大変忙しくされている方で、大会前は一度顔合わせをただけでした。

私は定年後は農業に従事していますが、69歳で試合に出られることに大きな希望と喜びをかみしめ、声がかかった日から毎日労働と練習をしながら準備をしてきました。

11月11日に岡山駅に参加選手・関係者の約160名が同じユニフォームを着て集合し、新幹線にて出発。まるで修学旅行のようでした。翌12日の開会式は初めての横浜アリーナで、その大きさにビックリ！会場内は色とりどりに装飾されて満員で、異次元の世界に飛び込んだようでした。式典では入場行進者5名の中の1人

として参加したことも、記念の一つになりました。皇室をはじめ政界・芸能界の方々が出席したセレモニーも艶やかで思い出になりました。

翌13日の鎌倉武道館での開始式からは、経験のある様式で慣れているはずでしたが、最近ほとんど審判での参加で選手としては久しぶりの参加なので、現役の頃を思い出して異様に緊張している事に気づきました（これがブランク？）。改めて気を引き締めて全集中。2試合目の小太刀の試合は順調に勝ち進み、とうとう3位決定戦で秋山さんと岡山県同士で対決することに。最高の気分になり、今回の1番の思い出にしようと試合に臨みましたが、ほんの一瞬に秋山さんの小手が入り、「勝負あり」との声とともに勝負決着。一生の思い出となる試合になりました。秋山さん、ありがとうございました。一



緒に写真も撮ることができて最高の記念となりました。皆様に感謝を申し上げる次第です。

ともに出場した秋山さんとの記念ショット。(右)



小太刀の3位決定戦は岡山県対決に。(右)



## ペタンク 「ごっぽ宇部」(監督兼選手)

はしもと いさお

橋本 勲さん

67歳

● 参加歴：1回目

### 負けてもすかっと爽快！ この経験を次に生かしたい

2021年5月の代表選考大会で出場権を得ましたが、中止のため、2022年度の「ねりんピックかながわ2022」へ繰越で推薦していただきました。しかし、今年も新型コロナの感染は収まらず、夏の屋外でもマスクを着用し、感染予防と熱中症対策をしながら練習を行い、抗原検査を実施しての参加となりました。

私たちのチームは仕事を持っている人もいますので、休みの土曜日を合同練習日にして、平日は個人練習で技術の向上に努めました。

ペタンクは、直径3cmの目標球（ビュット）に向けて金属のボールを投げ、目標球に近いボールを得点とするゲームです。ポッチャのボールを金属に変えたものと思ってもらえればよいと思います。ペタンクの本格的な普及は1970年からで、50年余りの歴史しかなく、知名度がまだあまりありませんが、高齢になっても続けられる競技なので、競技歴30年を超えるベテラン選手が全国にたくさんおられます。

山口県では、若手がなかなか代表になるのが難しい状況でしたが、競技者が全体的に高齢化したために、比較的若く新しいチームが代表になり始めています。私たちが結成して5年で代

表権を獲得できたのも、同様な理由からだと思っています。

出場が決まってからは、各自が練習を行い、作戦通りに投げられる確率を上げることに注力しました。総合練習は週に1回、土曜日に行い、本番では楽しみながらプレーすることを申し合わせて大会に臨みました。

1日目の天気が雨予報でしたが、両日とも雨具を着けずにプレーすることができました。日頃は、県外の試合に参加することがないので、他県のチームとの対戦や交流ができたのはよい経験になりました。

決勝トーナメントの準々決勝では名古屋市チームと対戦し、9m位の距離の私たちの得点ボールに直接に投球を当てて、投げたボールがその場に残るという「カラー」を決められ、私たちは、レベルの大きな違いを感じながらもすっきりした気持ちで試合を終えることができました。

今回の経験を県内の選手へ伝え、さらなるレベルアップと競技者拡大に努めたいと思っています。



試合を楽しもうと誓い合った「ごっぽ宇部」チーム。(左端)



入場行進では山口県選手団の旗手を務めた。



## 水 泳 平泳ぎ 50m 平泳ぎ 25m 「山口県」(選手)

た な か けん じ  
田 中 健 二 さん

68 歳

● 参加歴：2 回目

### 電光掲示板に光る「1 位」の記録に歓喜！

「ねんりんピックかながわ 2022」の1週間前から、小学生のようにウキウキ・ワクワクしていました。ウキウキ・ワクワクする気持ちが、68歳の私の若さと健康の秘訣です。

総合開会式は「神奈川に 咲かせ長寿の いい笑顔」をテーマとした大変素晴らしいものでした。特にメインアトラクション「～昭和・平成・令和そして未来へ～」は自分の生い立ちとオーバーラップして強い感動を受けました。

水泳会場の相模原グリーンプールでの試合は、私にとって今回が3回目となります。1回目は、25年前に日本実業団の試合で優勝（この日に四男が誕生）、2回目は24年前の「かながわ・ゆめ国体」に出場しました。このプールは大変相性のいいプールと言えます。

翌日、いよいよ水泳競技が始まりました。1日目の50メートル平泳ぎ。不安と緊張の中、スタート台に立ち、飛び込んだ瞬間、ゴーグルの中に水が入るという思いがけない事が起こり、前方がよく見えない状態になりました。

あせってはいけなと自分に言い聞かせましたが、25メートルの壁がよく見えずターンに失敗、ラスト15メートル付近で今までの練習や県

代表、家族の顔を思い出し、最後のモガキ（苦しんで手足を動かす）でゴールタッチ。振り返って電光掲示板の「1位 37 秒 06」を見てほっとしました。しかし、記録は満足できるものではなかったので悔しい思いをしました。相性のいいプールだったのに……。

普段の大会では表彰式がないため、久しぶりに表彰台中央で金メダルを掛けてもらい、県代表としての役割を果たせたと安堵と充実感にひたりました。

2日目は、昨日のレースでゴーグルに水が入ったので予備のゴーグルに変え、前日に続き金メダルを目標にスタート台に立ちました。

スタートからゴールタッチ、特に泳ぎに問題ありませんでした。振り返った電光掲示板の「1位 16 秒 31」にうれしさがこみ上げました。家族や水泳仲間祝福され、記憶に残る大会となりました。

私が金メダルをもらえたのは、地元周南スイミングで練習ができたこと、県の代表に選出してもらったこと、最後に妻の理解があったことだと思って感謝しています。

これからは、結果ばかりにこだわらず、競技ができる喜びをかみしめて泳ぐことを大切に、健康で長生きしたいと思います。



久しぶりの表彰台に。忘れられない大会となった。



念願の金メダル2つを獲得！



## ゴルフ 「徳島県」(選手)

きの うち えい ぞう

木内 栄造 さん

68 歳

● 参加歴：1 回目

## 優勝はゴルフの神様からのプレゼント

私は今回、「ねりんピックかながわ 2022」のゴルフ競技に、徳島県の代表として参加させていただきました。ゴルフは若い頃から長年続けていたのですが、競技としては最近まで縁はなく、もっぱら友人たちとの親睦を深めるためと健康維持のためのゴルフに没頭していました。ゴルフ競技には、テレビでも放送されているプロのトーナメントと同じルールで競う「スクラッチ競技」と、腕を競いながらも親睦を深めることを重視した「ハンディキャップ競技」があります。ねりんピック予選は、ハンディキャップ競技で行われたため、運良く徳島県の代表の一員に加えてもらえることになりました。

団体戦のメンバーは、私の所属するクラブの先輩の中野寒次さんと県下ではベテラン選手の小谷博さんとの3人です。団体戦は3人のスコアの合計で競うため、大きな大会に参加経験のない私は、ちょっとだけプレッシャーを感じておりました。

神奈川県までの移動は公共交通機関を予定していたのですが、ゴルフクラブのキャディバッグの発送やホテルからの移動を考慮して、1台の車に3人が乗り合わせて行くこととしました。片道7時間の長距離ドライブでしたが、3人で交替しながら運転して、車内での会話は好きなゴルフの話題で途切れることがなく、無事に神奈川県の会場に到着しました。

会場は箱根外輪山の麓の大箱根カントリークラブです。アップダウンの少ない雄大なコース



大箱根カントリークラブで伸び伸びとプレーを楽しんだ。

で、到着したときのスタッフの対応、コースの芝の管理状況、キャディさんの的確なアドバイスなど全国大会の会場としてふさわしい素晴らしい会場でした。

ゴルフ競技は4人1組で実施されます。同伴者は、地元の神奈川県、福岡県、鳥取県の選手でした。ゴルフ競技は、4時間から5時間のプレー時間に休憩の時間も含めて6時間程度の長時間になります。プレー中は、4人が同じゴルフカートに乗って移動するのですが、各地のゴルフ事情、各自のゴルフスタイルなどを話しながらの競技は、ねりんピックならではのようです。

競技後は、時節柄表彰式はなく、少人数での時間差の懇親会が行われ、団体戦の優勝と予想外の個人戦の優勝の連絡をいただきました。団体戦優勝は、移動から宿泊まで数日にわたって行動したチームワークの集大成でした。個人戦の優勝は、ゴルフの神様からのハンディキャップのプレゼントと思っています。

最後に、今回の大会に関係された皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。お世話になりました。



団体優勝はチームワークの賜物。(右端)



## ソフトボール

「鳴門クラブ」(監督代行兼選手)

ふく い かず ひろ

福井 和弘 さん

66 歳

● 参加歴：1 回目

## 豊富な経験を糧に臨んだ初めてのねんりんピック

我らが「鳴門クラブ」は、2020 年に結成しました。しかし、ねんりんピックは 2020 年、2021 年とコロナで中止になり、この度、神奈川県での大会に初出場することができました。

「鳴門クラブ」の前身は、一般のクラブチーム「鳴門渦潮クラブ」です。鳴門渦潮クラブは 1984 年に結成され、その翌年、鳥取県で行われた「第 5 回全日本クラブ男子選手権」に初出場し、初優勝をすることができました。その当時から、部員は 11 名、ピッチャーは、エースの関原がほとんど 1 人で投げきってきました。鳴門渦潮クラブ結成から 12 年間で、優勝 1 回、準優勝 1 回、国体も 2 回出場できました。

2001 年、壮年（40 歳以上）のチームを新たに結成しましたが、やっぱり部員は 11 名、ちょっと年離れた「さわやかイレブン」でした。結成より 12 年間、戦績は西日本大会で優勝 7 回、全日本大会で優勝 6 回（うち 5 連覇）、準優勝 3 回、マスターズ優勝 3 回、準優勝 1 回です。

そして、2013 年に壮年のメンバーがそのまま実年（50 歳以上）のチームに上がり、戦績は 10 年間で優勝 1 回、準優勝 2 回です。2020 年にはシニアチームを結成し、2022 年にシニア全日本大会に出場し、2 回戦敗退で終わりました。自慢話ですみません。

今回の「ねんりんピックかながわ 2022」は、初めての参加だったので、わくわくしな

がらも、自覚をもって出場し、優勝を勝ち取ることができました。ねんりんピックかながわ 2022、最高！

また、ねんりんピックのソフトボール交流大会に携わってくださったスタッフ、審判員の皆さん、開会式で吹奏楽、太鼓を演奏してくださった皆さん、感動しました。ありがとうございました。

3 年後のねんりんピックにも参加できるように、練習に励んでいきます。また、とくしま“あい”ランド推進協議会事務局の皆様方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。ご苦労様でした。



バッターボックスに立つ福井さん。



試合前、心地よい緊張感とともに記念の一枚。(後列左端)



## なぎなた 「香川県」(監督兼選手)

すぎした りょう こ

杉下 良子さん

65 歳

● 参加歴：1 回目

## 夢は 25 年後、娘と一緒にねんりんピック出場

こんなに緊張したのは何年ぶりでしょうか。まるでジェットコースターに乗る直前のドキドキ感と試合前のとてもワクワクする気持ち。60 歳を過ぎてこんな体験ができるなんて、なんと素晴らしいことでしょう。

大会初日は演技競技から始まりました。私は生意気にも監督として、人生の先輩であるお二人に叱咤激励しながら練習を重ねてきました。過去に優勝経験のある香川さんと資延さんのペアでしたが、残念ながらミスをして2回戦敗退という結果になりました。

午後は3名による団体戦です。先鋒の谷口さんは落ち着いた試合運びで先鋒の役割を十分に果たしてくれました。中堅は私の一番好きなポジションです。大将には迷惑をかけられない、私は何がなんでも一本取ってチームを勝利に導きたいと意気込みました。今大会で最高年齢賞に輝いた香川さんを手ぶらでは帰せないと焦る気持ちが空回り、引き分けに終わってしまいました。しかし、さすがが大将役をお任せした香川さんです。落ち着いた試合運びで、きっちり2本を取り、チームを勝利に導いてくれました。決勝では残念ながら負けてしまいましたが、私たちをいろいろな面でサポートしてくださった資延さんも含めて4人で勝ち取った準優勝でした。試合が終わり安堵した気持ちとやりきった感で感無量になりました。全国から集まった仲間たちも祝福してくれました。

ねんりんピックとの出会いは平成6年、地元で開催された「かがわ大会」に審判として参加した時です。平成20年の「かごしま大会」にも審判として参加し、その時から60歳になったらね

んりんピックに選手として出場したいと思っていました。前回の「和歌山大会」で初エントリーをしましたが、大会直前に心臓疾患が見つかりドクターストップ。さらにその翌年には大腸ガンと診断され、もう二度と防具を着けて試合には出られないのではないか、と不安に思っていました。その後、心臓カテーテル手術やガン切除で防具を着けられるまでに回復。実は今回のチームメイトも、全員が身体のどこかに不具合をかかえております。ねんりんピックに参加される多くの方々が、同じように身体の不調や家族の介護を抱えながら競技を続けておられると思います。早く大会に送り出してくれた家族に感謝して、また素晴らしい大会運営をしてくださった神奈川県の皆様にも心よりお礼を申し上げます。私も25年後に娘と一緒にねんりんピック出場という夢をもって、次世代選手の育成と自己研鑽を重ねていきたいと思っています。



4人で勝ち取った感無量の準優勝。(右から2番目)



## サッカー 「香川シニア 60」(選手代表)

さ さ き のぼる  
佐々木 登さん

64 歳

● 参加歴：3 回目

### メンバー全員で勝ち取った待望の金メダル！

私は3回目の参加となった今大会で、長年お世話していただいた先輩の後を引き継ぎ、チームの責任者として参加しました。選手の募集、選考から始まり、参加申し込み、宿泊ホテルの確保、JR チケットの手配、参加費の集金、支払いなどの会計業務まで。準備することが多くて最初は不安もありましたが、メンバーの理解と協力のおかげで無事、大役を果たすことができました。

桜木町のホテルに宿泊していたため、横浜赤レンガ倉庫を散策したり、観覧車に乗ったり、動くガンダムに感動したりとそれぞれに横浜観光を楽しみました。昼は新横浜ラーメン博物館で1950年代の夕焼けの街並みの中でラーメンを堪能し、夜は横浜中華街で本場の中華料理を満喫。2日間の交流大会の健闘をみんなで確認しました。

横浜アリーナでの開会式は、都会らしさを感じさせる趣向を凝らした演出で非常に感動しました。サッカー交流大会の第1試合は強豪「埼玉シニア 60」さん。初戦は監督の方針でベストメンバー、交代なしで勝ちに行こうと臨みましたが、しかし、さすが関東の強豪チーム。足元の技術が上手く、何度かピンチを招きながらも何とか無得点に抑え、こちらの攻撃はなかなか思うように機能せず、0-0の引き分けとなりました。

第2試合は「山形県鶴岡 FC ドリーム」さん。この試合からは「香川シニア 60」らしい試合となりました。相手よりもより走り、最後まで諦めないでボールを追いかける。前半後半ではほぼメンバーを総

入れ替えし、全員で守り攻撃するスタイルが機能。後半に貴重な1点を入れて逃げ切り、1-0で勝利することができました。

翌日の相手は「シニア岡山 60」さん、近県でよく試合を重ねており、手の内の知れたチーム同士の戦いとなり、お互い勝てば首位になれるという状況でした。この試合も全員出場で前半は0-0で折り返す展開に。後半、少し攻撃的な布陣で挑んだ香川が押し気味に試合を進め、相手陣内で得たFKをゴール前に上げ、相手のクリアがオウンゴールとなり1点先制。そのまま相手の攻撃を無得点に抑えて1-0で勝利することができました。2勝1分け勝ち点7、全員出場でブロック優勝、金メダルを獲得することができました。「あきた大会」の銅メダル、「和歌山大会」の銀メダルに続き、今回は待望の金メダル！記念すべき大会となりました。

関係者みなさんに感謝するとともに、全国の参加者と交流できたこと、横浜の街を満喫して大人の修学旅行のような楽しい時間を過ごせたことをいい思い出に、これからも生涯スポーツとしてのサッカーを楽しんでいけたらと思います。



全員出場で勝ち取った優勝は喜びもひとしお。(後列右から3番目)



## スポーツチャンバラ 「高知県」(監督兼選手)

の む ら み ゆ き

野村 美雪さん

60 歳

● 参加歴：1 回目

### 人生最高の笑顔が咲いた優勝インタビュー

スポーツチャンバラが誕生して 50 年となる節目を目前に控えた 2022 年、この競技がねりんピックで初開催されることになりました。開催地は憧れの地「鎌倉」。

31 歳の時、家族でスポーツチャンバラを始めて 29 年。大会が 1 年延期されたことで、夫婦 2 人揃って高知県選手として出場させていただくことになりました。思えば 17 年前から娘に負け続けてきましたが、「この大会に娘はいないなあ」と。いつの日からか「ねりんピックで初代優勝したい」と思うようになり、この 2 年間、「ねりんピック出場」という目標が心の糧でした。目標があると練習が楽しく、60 歳でも最年少！もう、ワクワクしながらこの日を迎えました。

試合は毎回ドキドキするものですが、今回は格別で、基本動作の対戦は毎回かつてない緊張をしました。ついに決勝戦。思いがけず会場内に「野村さ～ん、頑張って～」という声援が。ちょうど高知県社会福祉協議会の町田さんが来てく

れ、手を振ってくれていました。夫や娘夫婦、孫の姿も傍らにあり、「娘はこんな景色を見たのか」と、ふと緊張がほぐれました。結果は旗 1 本を落としましたが優勝。やったあー！拳を握り締めました。私の集大成でありました。後から優勝者インタビューを受けた映像を見たのですが、笑顔満開。こんなにうれしそうな自分の顔を見たことはありませんでした。

次に打突。こちらは夫婦ともに入賞には届きませんでしたが、思いっきり剣を振って全国の先輩方と対戦。なんと楽しいことでしょう。これぞスポチャンの醍醐味、「勝って良し、負けて良し、見て良し」。試合を堪能し人生のご褒美をいただいた気分でした。今後は「こんな面白いことが待ってるよ」と、後進に道を示していきたいと思います。

この素晴らしい「ねりんピックかながわ 2022」に参加させていただき、携わっていただいた全ての方々に、心より感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。



気合を入れて、得物自由(ロング)の試合へ。



大会審判長の多田先生(左)と夫(右)と一緒に。



## 水 泳 平泳ぎ 50 m 平泳ぎ 25m 「広島市」(選手)

ひ ぐち つよし

樋口 毅さん

81 歳

● 参加歴：10 回目

### 人生 100 年時代、これからが私たちの出番

目標としていた 10 回目のねんりんピックが無事終了しました。選考していただいた関係者、水泳仲間に心から感謝します。

本来スポーツは大好きですが、健康第一が基本だと思います。私の健康法は運動、食事、休養など規則正しい生活をするのと、スポーツを通じていい汗をかき、リフレッシュするのがモットーです。そのため、週に 4、5 回スポーツクラブに通い、年齢に応じたトレーニングと水泳の練習をするのが日課ですが、年々体力の低下とタイムのダウンは否めません。

競泳を始めて 24 年になりますが、毎年県内、全国の大会に 10 回以上出場してきました。ねんりんピックは、友人に勧められて初めて出場したのが 61 歳の時。その時の目標は 10 回出場とメダル獲得でした。幸い、これまで金 11、銀 4、銅 6 のメダルを獲得でき、その結果に満足しています。今回は、過去の大会で競り合った他県の 3 名と再会して交流することができ、表彰台での雰囲気も格別なものがあって、有意義な大会になりました。また、技術面では、63 歳の時に出場した「群馬大会」で 1 位だった選手の泳法が印象的で、現在のフォームに改造しました。

ねんりんピックは 60 歳以上の高齢者向けイベント

だと位置づけていましたが、今や、「シニアの国体」とも言うべき交流会だと思います。2006 年から今まで、ねんりんピックに出場した市や県の有志による親睦主体の「ねんりん会」を結成し、現在 38 名の会員で年 3 回会合を開催しています。飲食を交えて水泳に関する情報、技術向上、世間話など、所属クラブは違いますが意見の交換と親睦を図っています。

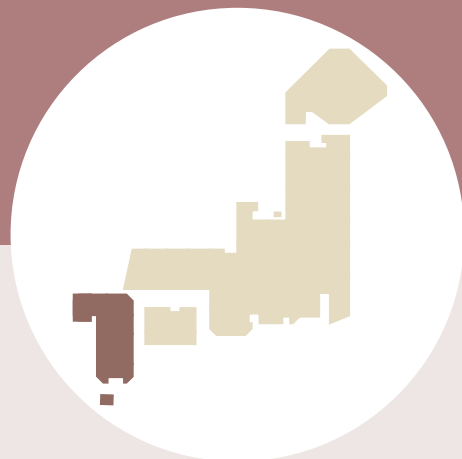
今や人生 100 年の時代です。これからが我々の出番ですよ！ 私も「スイム 100 歳」をめざして努力と根性で頑張ります。

最後に、「ねんりんピックかながわ 2022」ははつらつとした楽しい大会でした。神奈川県皆さん、大会を支えていただいた地元相模原の皆さん、ありがとうございました。



広島市水泳チームの皆さんと。努力と根性でめざすは「スイム 100 歳」。(前列右端)

# 九州・沖縄



|                                                                                     |                                                                                     |                                                                                     |                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| p.52 長崎県                                                                            | p.53 熊本県                                                                            | p.54 熊本県                                                                            | p.55 沖縄県                                                                              |
| 平田好郎さん                                                                              | 矢野 穰さん                                                                              | 守田涼子さん                                                                              | 金城盛男さん                                                                                |
|  |  |  |  |
| ダンススポーツ                                                                             | グラウンド・ゴルフ                                                                           | スポーツウエルネス吹矢                                                                         | グラウンド・ゴルフ                                                                             |





## ダンススポーツ 「ながさき椿」(監督兼選手)

ひら た よし ろう

平田 好郎 さん

70 歳

● 参加歴：5 回目

## 最高のパフォーマンスと最高の思い出をカップルで

今回、県代表として参加できるのは男子4名、女子4名の4組8名です。その選抜戦に向けて、毎週2～3回の練習を重ねてきました。健康のために始めたダンススポーツですが、今回で5回目となる代表に決まったときは、「やったー！」とカップルで大喜びしました。

いよいよ出発の朝、ワクワクした気持ちで、仲間や長崎県選手団と合流。和気あいあいの中、点呼も済み、長崎空港から羽田空港、そして川崎市の宿泊ホテルへ。夕方、仲間で近くの商店街を散歩すると、「ねりんピック」の大きな横断幕が入口に吊り下げられていて嬉しくなりました。みんなで食事をして、ワイワイと楽しかったことも忘れられません。普段は練習に明けくれ、このようなことはないのです。

翌日、横浜アリーナへ。全国から集まった選手団が見守る中での開会式。特に昭和から平成、令和と、その時代の流行を表現したアトラクションに感激しました。歌あり、ダンスあり、朗読ありで楽しませてもらいました。

11月13日、川崎市の会場でダンススポーツの交流試合があり、全国から190組が参戦しました。その中で「長崎からですか？ 実家が佐世保です」と声を掛けられたり、結果の掲示付近で他県の方と目を見合わせたりと、そのたびに笑顔がありました。ダンススポーツの最高齢は、男性90歳、女性89歳でしたが、とてもそのようには見えません。ダンスには

姿勢も重要な要素ですから、やはりみなさん普段の動きから意識してされており、若々しさを維持していると感じました。

団体戦で2次戦、3次戦、準決勝と進むにつれ、だんだん競技レベルが上がり、さらに熱を帯びた応援になりました。私たちは、普段はカップルで別々に練習し、それぞれ競技会に挑戦しているため、チームを組んでのねりんピックでは、チームの一員として最高のパフォーマンスを発揮しようと頑張りました。結果としては、上位進出はできず残念でしたが、最高の楽しい思い出となりました。

ダンスの上達は「小石を積み重ねたごとく」といいます。日頃の練習は健康に気をつけながら、上達を目指して継続していきたいと思っています。素晴らしい大会を開催していただきました神奈川県、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



最高のチームワークで、いざ団体戦へ。競技会場入口にて。(左から2番目)



## グラウンド・ゴルフ 「熊本県」(選手)

や の ゆずる

矢野 穰さん

68歳

● 参加歴：1 回目

### 初めての全国大会、華々しいデビュー戦績に大満足

私がグラウンド・ゴルフを始めたのは、妻が農協の婦人部の集まりで先に体験して、「とても面白いからあなたもやってみたら?」と言ったのがきっかけです。元々ゴルフは永年続けていたため、距離の短いグラウンド・ゴルフは簡単なものだと思っていました。ところが、いざ始めてみるとなかなか難しい競技で、うまくなりたい一心で夢中になってしまいました。その後、数々の大会に参加しましたが、ねんりんピック熊本予選会への参加は2回目でした。

前回の成績は散々な結果でしたが、今回は運よく県大会で上位入賞し、「ねんりんピックかながわ 2022」に熊本県代表として出ることが決まりました。グラウンド・ゴルフには同じ益城町から3名が出場し、県選手団は11月11日に熊本空港から羽田空港、そこからバスで横浜市のホテルへ移動し、夜は横浜中華街で頑張ろう会を開催しました。

12日は横浜アリーナで総合開会式、三笠宮彬子女王殿下をお迎えして開会です。地元出身のタレントの方々がたくさん出演され、いろいろなアトラクションがあり、素晴らしい開会式でした。

その後、グラウンド・ゴルフ競技会場の近くのホテルに移動しました。

13日は茅ヶ崎の柳島スポーツ公園で、河野太郎大臣ご出席のもと開始式に臨み、そのまま初日のプレーが始まりました。1ラウンド目、出だしはあまりよくなかったものの、終盤の6番、8番でホールインワン

を出して12打で回りました。2ラウンド目はホールインワンなしですが、2打も少ない20打となり、トータル32打で初日を終えました。

翌日、プレー開始前に配られた初日の順位表を見ると、トップでした。県や九州の代表選手から「頑張れ!」の声援を受け、3ラウンド目のスタート位置に。守りに入ってはだめだと思い、強気に出たところが、出だしが4打。その後もホールインワンなしで21打となり、2日間トータル53打で、残念ながら4位で大会を終えました。

優勝を狙いましたが、自分なりに素晴らしい成績を残せた大会であったと思います。一緒にプレーした方や、九州地区の選手の方々と次の大会での再会を約束しました。大会期間中は茅ヶ崎市の職員方、グラウンド・ゴルフ協会の皆さんに大変お世話になりました。また次回も参加できるよう、日頃の練習を頑張ってまいります。



表彰式で。惜しくもメダルは逃したものの4位で納得の好成績。(左端)



## スポーツウエルネス吹矢 「くまモン混成」(選手)

もり た りょう こ  
守田 涼子さん

69 歳

● 参加歴：1 回目

### 夢のような好成績。大会本番で自己ベスト更新！

11月11日、いよいよ「ねんりんピックかながわ2022」へと4泊5日の旅の始まりです。

熊本空港で熊本県選手団の皆様と一緒に飛行機に乗り込み、初めての挑戦に期待と不安を胸に出発しました。羽田空港からはバスで横浜の宿舎へ。お揃いのユニフォームを着た選手団が並んで移動する様子は、まるで大人の修学旅行でした。夜はもちろん横浜中華街での食事。ランタンがきらめく中、みんなで明日からの健闘を誓いました。

12日は横浜アリーナでの総合開会式です。日本各地の選手団がそれぞれのユニフォームで続々と集まり、会場一杯に花が咲いているようでした。テレビでしか見ないような有名な方々が次々出られ、素晴らしい開会式に興奮しました。その後、選手団はそれぞれ競技ごとの会場へ移動となりました。お世話いただいたスタッフやボランティアの皆さんは大変だったかと思います。本当にありがとうございました。

13日は試合です。スポーツウエルネス吹矢の会場は平塚市でした。スポーツ施設が大変充実していて、体育館の周りは広い運動公園になっており、たくさんの方々が利用されていました。

スポーツウエルネス吹矢は、4重の輪が描かれた8m先の的に向け、5本の吹矢を吹きます。それを6回繰り返し、総合点数で勝敗が決まります。的の中心が7点で、それから5点、3点、1点となります。高得点を出すには安定した呼吸と集中力が必要です。

結果は、自分でも驚くような高得点。プレッシャーを感じることなく、落ち着いてプレーできて自己ベストを更新しました。成績は個人戦

女子で準優勝、団体戦では男女混成チームで優勝しました。このような場に出られたことだけで満足でしたのに、表彰は夢のようでした。その夜は熊本の皆さんに祝勝会をしていただきました。胸を張って熊本に帰れると、応援の皆さんも喜んでおられました。

この大会に出られたのは、家族の協力と皆さんの応援があつてこそ。それが嬉しい結果につながり、感謝の思いで一杯です。翌日はフリーの日で、自分にご褒美の鎌倉観光でした。大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の地でさまざまな名所、旧跡に思いを馳せ、大満足な旅を終えました。

70歳近くになってもこのような大きな大会に出ることができ、たくさんの皆さんと喜びを分かち合うことができました。健康と長寿、また生きがいを感じるこの大会がこれからもずっと続くことを切に願います。



団体戦の優勝メンバーと。(中央)

個人戦でも準優勝！  
『ねんりん★ピックチャ』アプリで撮影



## グラウンド・ゴルフ 「沖縄県」(選手)

きん じょう もり お

金城 盛男 さん

66 歳

● 参加歴：1 回目

### 二度目のねんりんピックを夢見て、挑戦に乾杯！

今回のねんりんピックへ参加した私の競技は、グラウンド・ゴルフでした。昨年、選考を兼ねた沖縄県主催の大会で6位に入賞したのが経緯です。

あれから1年を経ての参加ですから、その間いろいろな思いがありました。まずは、県で開催されるいくつかの大会に参加したとき、ねんりんピックに参加経験のある先輩諸氏からのお話がありました。「楽しかったよ」「僕も行ったことがある…」など。それらの話を聞かされるたびに、楽しい思いを胸に抱いていました。

家族には、神奈川県で開催される喜びを伝え、そこに住んでいる三男や東京で暮らす次男たちに久しぶりに会える日も待ち遠しくなりました。

また今回、沖縄県代表となったことを一番に伝えたい人たちがいました。私の地元の南大東村でグラウンド・ゴルフの指導をするようになったジュニアたちです。彼らは、2022年8月6日に鳥取県で開催された「第17回ジュニアグラウンド・ゴルフ発祥地大会」に、初めての沖縄県代表選手として参加したのです。結果は団体の部で全国準優勝を果たしました。

今回、私自身も沖縄県代表として参加し、誇れるスコアで結果を残すことができました。この喜ばしい経験を、今後のジュニア指導に活かしたいと思います。

ねんりんピックに参加して楽しかったこと、うれしかったことは他にもたくさんありました。全国の選手の皆さんとの交流や、一緒にプ

レーした他県の方とのLINE交換。沖縄県のメンバーとは行動を共にし、宿泊所の同じ部屋でいろいろな話を交わす中で、まるで修学旅行のような雰囲気を味わい、これまで以上に親密になることができました。この年齢で、今はやりのグループLINEをつくり、その日撮った写真やストックしていたデータ、情報を交換することもできました。兎にも角にも、他ではできない有意義で貴重な体験をたくさんさせていただきました。

できることなら、これらの思いをもう一度体験したく、数年後には選考大会で再び代表権を獲得して「2回目のねんりんピック出場」を果たしたいと、新たな目標をつくることができました。うれしい限りです。「挑戦に乾杯！」



ホールインワン賞も手にして大満足の初ねんりんピック。



# Information



## ねんりんピックとは

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は 60 歳以上の方々を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができる健康と福祉の総合的な祭典です。

ねんりんピックは厚生省創立 50 周年を記念して行われた昭和 63 年（1988 年）の第 1 回ひょうご大会以来、毎年開催されています。

卓球、テニス、囲碁、俳句などの交流大会や美術展、音楽文化祭、健康福祉機器展などのさまざまなイベントを通じて、地域や世代を超えた参加者の交流の輪が全国に広がっています。

## 「ねんりんピックかながわ 2022」大会情報

令和 4 年 11 月 12 日から 15 日の 4 日間、「神奈川に 咲かせ長寿の いい笑顔 未病改善でスマイル 100 歳」をテーマにねんりんピックかながわ 2022 が開催されました。神奈川大会では 26 市町で 32 種目の交流大会が開かれ、全国から集まった 1 万人を超える選手が日ごろの成果を発揮しました。

### ■ 動画配信

ねんりんピックの大会の様態を動画でご覧いただけます。（過去の大会についても動画を配信しております。大会動画配信ページのリンクからぜひご覧ください。）

<http://www.nenrinpic.com/kanagawa2022>（神奈川大会）

### ■ 最高齢者

| 性別 | 種目                | 所属  | 年齢 |
|----|-------------------|-----|----|
| 男性 | 健康マージャン           | 岐阜県 | 97 |
| 女性 | 健康マージャン<br>ゲートボール | 青森県 | 93 |
|    |                   | 徳島県 | 93 |

## 開催種目・平均年齢

| 種 目          | 開催市町          | 参加チーム数 | 参加者数<br>(選手・監督) | 平均年齢 |
|--------------|---------------|--------|-----------------|------|
| 卓 球          | 横須賀市          | 69     | 466             | 71.1 |
| テ ニ ス        | 横浜市           | 68     | 424             | 68.1 |
| ソフトテニス       | 小田原市/ 南足柄市    | 67     | 419             | 68.1 |
| ソフトボール       | 小田原市          | 68     | 964             | 67.9 |
| ゲートボール       | 藤沢市           | 129    | 727             | 76.7 |
| ペ タ ン ク      | 大井町           | 64     | 219             | 76.1 |
| ゴ ル フ        | 箱根町           | 55     | 164             | 70.3 |
| マ ラ ソ ン      | 山北町           | —      | 221             | 69.4 |
| 弓 道          | 秦野市           | 68     | 437             | 70.9 |
| 剣 道          | 伊勢原市          | 67     | 381             | 67.5 |
| 水 泳          | 相模原市          | —      | 320             | 71.0 |
| グラウンド・ゴルフ    | 茅ヶ崎市          | —      | 356             | 77.9 |
| オリエンテーリング    | 真鶴町           | 21     | 60              | 69.7 |
| ラグビーフットボール   | 厚木市/ 海老名市     | 26     | 532             | 67.8 |
| サ ッ カ ー      | 横浜市           | 64     | 1,126           | 65.0 |
| ソフトバレーボール    | 藤沢市           | 64     | 463             | 66.4 |
| な ぎ な た      | 川崎市           | 35     | 122             | 69.4 |
| ウォークラリー      | 座間市           | 43     | 212             | 73.6 |
| 太 極 拳        | 大和市           | 56     | 391             | 71.4 |
| 軟 式 野 球      | 川崎市/ 秦野市/ 中井町 | 27     | 454             | 68.7 |
| ターゲット・バードゴルフ | 綾瀬市           | 25     | 86              | 75.2 |
| バウンドテニス      | 相模原市          | 31     | 200             | 70.3 |
| ダンススポーツ      | 川崎市           | 53     | 417             | 69.9 |
| パークゴルフ       | 開成町           | 29     | 112             | 75.1 |
| インディアカ       | 南足柄市          | 15     | 96              | 68.1 |
| スポーツウエルネス吹矢  | 平塚市           | 59     | 183             | 72.8 |



|           |          |    |     |      |
|-----------|----------|----|-----|------|
| サーフィン     | 茅ヶ崎市/大磯町 | —  | 75  | 63.6 |
| スポーツチャンバラ | 鎌倉市      | 13 | 39  | 68.1 |
| 囲碁        | 平塚市      | 56 | 160 | 75.4 |
| 将棋        | 愛川町      | 62 | 182 | 71.6 |
| 健康マージャン   | 厚木市      | 66 | 262 | 75.2 |

※俳句交流大会を除く

## ねんりんピックに参加するには

### ■ 選手として参加する

都道府県・政令指定都市ごとに選手団が結成されます。また、美術展でも60歳以上の方の作品募集を行っていますので、お住まいの都道府県・政令指定都市選手派遣団体へお問い合わせください。選手派遣団体の一覧は、当センターホームページ（<https://nenrin.or.jp/ikigai/nenrin/about.html>）をご参照ください。

### ■ イベントに参加する

総合開会式、総合閉会式、講演会、音楽文化祭などのイベントでは事前に入場者募集を行います。また、ふれあい広場をはじめ、どなたでもお楽しみいただけるイベントも数多く開催しますので、大会公式ホームページで情報をご確認の上、ぜひご参加ください。

### ■ これからの開催地

| 大会会期        | 開催地 |
|-------------|-----|
| 第35回（令和5年度） | 愛媛県 |
| 第36回（令和6年度） | 鳥取県 |
| 第37回（令和7年度） | 岐阜県 |
| 第38回（令和8年度） | 埼玉県 |

ねんりんピックかながわ 2022

参加選手体験談集

## ねんりんピックで輝くシニアの星

---

発行日 2022 年 12 月 30 日

発行所 一般財団法人 長寿社会開発センター

〒105-8446

東京都港区西新橋 3-3-1

KDX西新橋ビル 6 階

Tel. 03-5470-6753

<https://nenrin.or.jp/>

---

※無断転載・複製を禁じます。



神奈川県マスコット  
「かながわキンタロウ」



一般財団法人 長寿社会開発センター